

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-01	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	地域少年育成活動補助		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	坂井	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-08-01	地域少年育成活動補助					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	41 年度	根拠	荒川区補助金交付規則			
終期設定	有 無	年度	法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準		計画区分	計画	非計画		
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	子どもたちが協調性、生活能力、チームワークを学び、リーダーとして活動できるようにするため、異年齢交流・集団生活・野外生活等のグループ活動を支援する。						
対象者等	荒川区少年団体指導者連絡会（以下「荒少連」と略す）						
内容	<p>それぞれの事業に対し、事業費の一部を補助する。</p> <p>【少年キャンプ（チャレンジキャンプ）】 区主催のチャレンジ共和国に参加した小中学生等を対象に、共和国で学んだことを実地で体験し、生きる力を養うことを目的に、各地のキャンプ場等で実施 ・平成25年度：8月9日（金）～11日（日）、静岡市浜石野外センター ・平成26年度：8月7日（木・夜発、船中泊）～10日（日）、伊豆大島</p> <p>【子ども会大会】 子ども会に加入している小学生、少年キャンプ参加者等を対象に、各子ども会や子ども同士の交流等を目的にゲームやウォークラリーなどを実施（例年11月末）</p>						
経過	<p>【少年キャンプ・子ども会大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和38年度 子ども会大会を開始</li> <li>・昭和41年度 少年団体指導者研修会（リーダーキャンプ）開始</li> <li>・昭和62年度 リーダーキャンプを「チャレンジキャンプ」として拡大</li> <li>・平成12年度 荒少連への補助事業としてキャンプと子ども会大会を実施</li> </ul> <p>【わんぱく相撲】 ・昭和49年度 開始 ・平成18年度 実行委員会に対し補助金を交付</p> <p>【鉄人レース】 ・平成13年度 南千住地区の子どもたちを対象に開始 ・平成20年度 実行委員会に対し補助金を交付</p> <p>平成26年度から、組織改正に伴い、わんぱく相撲及び鉄人レースはスポーツ振興課へ事務移管し、少年キャンプ及び子ども会大会は、生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施する</p>						
必要性	子どもたちが野外活動やウォークラリー、トライアスロン、相撲等を通して、自主性や協調性、社会性を養うことは、心身の健全育成に大きく寄与するものであり、必要性は高い。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 各主催団体に対し、区が補助する。 【主催団体】荒川区少年団体指導者連絡会						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	1,716	2,245	1,745	1,818	1,818	3,711	2,163	
決算額（26年度は見込み）	1,714	2,236	1,739	1,814	1,811	3,710	2,163	
人件費等	1,017	896	1,587	2,390	1,900	582		
減価償却費			726	1,089	742	237		
【事務分担当】（%）			25	35	23	7		
合計（+ +）	2,731	3,132	4,052	5,293	4,453	4,529	2,163	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	2,731	3,132	4,052	5,293	4,453	4,529	2,163	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
キャンプ参加者（児童・生徒）	71	77	70	64	88	83	80	
子ども会大会参加者（児童・生徒・育成者）	169	195	233	173	164	202	250	
わんぱく相撲荒川区大会	327	383	467	513	530	526	437	
鉄人レースイン汐入	313	345	379	329	335	350	256	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
旅費	職員旅費	9	負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	3,698	負担金補助等	少年キャンプ事業補助等	2,147
負担金補助・交付金	少年キャンプ事業補助	1,230	旅費	職員旅費	12	旅費	職員旅費	16
	職員参加負担金	18						
	子ども会大会事業補助	50						
	わんぱく相撲事業補助	370						
	鉄人レースイン汐入事業補助	135						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	キャンプ参加者数	105	132	120	120	130	運営者を含む
	子ども会大会参加者数	173	164	202	250	250	

（問題点・課題分析）	補助対象事業の効果的な実施のため、子どもたちが集団生活から協調性等を学ぶのに適切な人数と期間を設定している。そのため、キャンプについては、準備会も全3回出席できる方を優先受付しているが、実施時期の7～8月は、自然まるかじり体験塾（児童青少年課）や鉄人レース（スポーツ振興課）などの実施時期でもあり、参加しやすい日程を調整する必要がある。
	（実施 16 区 未実施 6 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
効果的な事業実施を支援するため、各学校や他部署の行事予定を把握し、なるべく日程が重複しない時期に実施できるよう、調整する。	26年度の対応を継続して実施する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	子どもたちの健全育成に必要な体験活動を推進するために、補助を継続する。

議（要旨）	況（質問状）
-------	--------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-02	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	少年教室		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	坂井	内線		3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-08-02	少年教室					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	59年度	根拠	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱		
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区小学校合宿通学事業補助金交付要綱		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-03	体験学習等の推進				
目的	日頃自ら物を作ったり、汗をかくという直接体験が不足しがちな現代の子どもたちが、学校や家庭では体験できない様々な体験教室に参加することによって、発見の喜びや「自主性・創造性」を伸ばすことができる。 また、異年齢交流や学校以外の友達づくりのきっかけとなり、地域での自発的な活動につながる。						
対象者等	【チャレンジ共和国】小学3～中学生 【少年少女体験教室】小学生3年生以上 【中学生ロボコン】中学1～2年生50名 【中高生リーダー養成講座】中～高校生						
内容	【チャレンジ共和国】小学生(インフォース)約120名、中学生(マスターコース)約20名 荒川区少年団体指導者連絡会(以下、荒小連)や青少年委員連絡会との企画会議で内容を決定する。 5～6月の計4～5回実施。工作、レク、調理、化学実験、モノづくりなどを実施する。 【少年少女体験教室】 ・大きな紙ヒコーキを作って飛ばそう(23年度まで「ペットボトルロケットを作ろう」) 親子15組 ・荒工おもしろ体験教室...3コース(サトプラストのコップ作り・電子工作(ホイロクター)・うちわ)、各定員30名 【中学生ロボコン】定員50名 ロボット製作と競技会を実施。準備会12～1月に6回(最終日高専大会)、北区大会2月、産業展大会3月、エキシビジョンマッチ大会4月 【中高生リーダー養成講座】 イベントの企画・運営、レクの実習等を行う						
経過	【チャレンジ共和国】 昭和59年度開始 【少年少女体験教室】 平成5年度開始 ・荒工おもしろ体験教室：平成12年度開始 ・ペットボトルロケット(高専おもしろ教室)：平成13年度～23年度 ・大きな紙ヒコーキ(高専おもしろ教室)：平成24年度～ 【中学生ロボコン】 平成13年度開始 【中高生リーダー養成講座】 平成20年度から中高生リーダー研修として実施、平成23年度に改称 平成25年度はスケジュール上の都合で実施なし 【合宿通学】 平成11年度に試行的に実施、平成13年度から実行委員会形式で実施し、補助金を支出 平成26年度から、事務執行については、合宿通学は教育総務課、それ以外は地域文化スポーツ部生涯学習課が教育委員会事務の補助執行として実施することとなった						
必要性	直接体験が不足している中、子どもの体験活動の機会を増やし、興味や関心を高めるとともに、共同作業を通して協調性や自主性を養う事業であり、必要性は高い。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) チャレンジ、養成講座...共催：荒小連/体験教室...共催：荒工/紙ヒコーキ...協力：産技高専/ロボコン...共催：北区教委,自然科学フォーラム,協力：産技高専/合宿通学...主催：実行委員会						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		1,492	1,695	1,767	1,660	1,678	1,606
決算額（26年度は見込み）		1,216	959	907	1,222	1,249	1,103	801
人件費等		6,522	7,006	6,175	9,327	8,330	6,704	
減価償却費				4,038	5,007	6,325	4,157	
【事務分担当】（%）				139	161	196	123	
合計（+ +）		7,738	7,965	11,120	15,556	15,904	11,964	801
特定財源	国							
	都							
	その他							
一般財源		7,738	7,965	11,120	15,556	15,904	11,964	801
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	チャレンジ共和国参加者数	191	174	176	226	233	184	184
	少年少女体験教室参加者数	145	153	106	136	113	112	110
	中学生ロボコン参加者数	36	43	48	42	41	48	50
	合宿通学（参加者数/実施校）	175 / 8	160 / 8	184 / 9	184 / 9	164 / 9	177 / 9	185 / 9

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	謝礼	445	負担金補助等	合宿通学事業補助金	597	報償費	謝礼	520
職員旅費	中高生宿泊研修日当	0	報償費	謝礼	312	需用費	消耗品費	273
一般需用費	消耗品費	235	需用費	消耗品費	194	使用料等	中高生宿泊研修会場使用料	8
使用料	中高生宿泊研修会場使用料	0	使用料等	中高生宿泊研修会場使用料	0			
負担金補助・交付金	合宿通学事業補助金	569						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	チャレンジ共和国（参加者数）	226	233	184	184	180	講座内容に合わせて、適正規模の定員を設定する
	少年少女体験教室・中学生味'ン（参加者数）	178	154	160	160	180	
	合宿通学（参加者数）	167	185	177	185	220	

（問題点・課題分析）	<p>【チャレンジ共和国】 例年、毎年定員を上回る応募があるが、スタッフを確保し、実施方法を工夫して全員受入れている。講座内容、育成者の人員に合わせた、適正規模(人数)の検討が必要である。</p> <p>【荒工おもしろ体験教室】 コースによって参加希望者数に差があり、抽選が必要なコースと全員受入れ可能なコースがある。参加希望が多いコースは定員を増やすなどの対応を検討する。</p>
	<p>他区の実況</p> <p>（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）</p>

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
チャレンジ共和国においては、できるだけ多くの子どもが参加できるよう、講座内容・育成者の人員を検証し、定員の増加ができるか検討する。	26年度の検討結果を踏まえ、なるべく多くの子どもを受け入れられるようにする。
荒工おもしろ体験教室においては、参加希望が多いコースの定員を増加できるか検討する。	26年度の検討結果を踏まえ、定員増について荒工と調整する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	子どもに多様な体験をさせる事業であり、優先度が高い。

議（要旨）	
-------	--



# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-03	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	家庭教育の向上		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	池内	内線	3354	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-09-01	家庭教育の向上					
	01-09-02	地域の教育力向上					
事務事業の種類	新規事業	（26年度 25年度）	建設事業	それ以外の継続事業			
開始年度	昭和	平成	39年度	根拠	親育ち支援事業実施要綱、地域教育力向上支援事業実施要綱・同補助金交付要綱等		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-11	家庭教育の推進				
目的	区民が青少年の健全育成の基盤となる家庭や家族の役割などを学ぶことにより、家庭の教育力を向上させる。						
対象者等	子育て中の親・保護者等						
内容	<p>【家庭教育学級】 家庭での子どものしつけや叱り方、ほめ方、能力の伸ばし方などについて、専門家による講義を実施。（定員20～40名、乳幼児コース春・秋各5回、小中学生コース春5回）。他、PTAと連携した家庭教育学級を実施</p> <p>【あらかわ「親育ち」支援事業】 子育てサカ等が行う子育てに関する自主的な学習活動に対し講師・託児謝礼を1グループ年2回まで助成</p> <p>【地域子育て教室】 地域で子育てをする環境を整備するため、子育て世代の交流等を目的として講座を実施（ふれあい館連携講座、地域のゆた-た養成講座、布のおもちゃ作り講座、パバスクール、食育講座等）</p> <p>【荒川区地域教育力向上支援事業（あらかわ子コミュニティ事業）】 地域の教育力向上を図るため、子ども達を核とした保護者や近隣住民が交流する事業に対して補助する</p>						
経過	<p>【家庭教育学級】 昭和39年度開始。平成13年度以降「明日の親コース」は保健所の事業に統合、必要に応じて小学校高学年・中学校コースを実施（20年度～小中学生コースとする）。23年度から乳児コース開始（25年度～乳幼児コースとする）</p> <p>【あらかわ「親育ち」支援事業】平成7年度、「子育てひろば」として開始。平成20年度から事業名変更</p> <p>【就学時健診時子育て講座（わかば教室）】 平成14～24年度、全小学校で実施。早寝早起き朝ごはん運動等で目的が達成されているため事業終了。</p> <p>【地域子育て教室】 平成17年度開始。20年度からふれあい館連携講座、布絵本（布おもちゃ）講座開始。 21年度から地域の子育てサポーター養成講座、平成23年度からあらかわパバスクールを開始。</p> <p>【荒川区地域教育力向上支援事業】平成21年度から実施。 平成26年度 地域文化スポーツ部生涯学習課の新設により、教育委員会の補助執行として実施。</p>						
必要性	少子化の進む社会環境の変化や、家庭の教育力の低下など、子どもたちや子育て中の親をめぐる様々な問題が起きている。このような状況下、子どものしつけや叱り方、ほめ方、能力の伸ばし方など子どもへの対応を、親や保護者が学びあうことは、家庭教育の向上に役立てられるため必要性は高い。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		2,647	3,247	4,063	3,983	3,934	3,621
決算額（26年度は見込み）		2,564	2,900	2,851	2,691	2,875	2,331	3,553
人件費等		11,833	13,440	15,319	14,589	14,225	9,988	
減価償却費				7,959	8,522	8,810	6,219	
【事務分担量】（%）		218	270	274	274	273	184	
合計（+ +）		14,397	16,340	26,129	25,802	25,910	18,538	3,553
特定財源	国							
	都			703	570			
一般財源		14,397	16,340	25,426	25,232	25,910	18,538	3,553
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	家庭教育学級（PTA連携除く）参加者/延	141/318名	137/305名	149/297名	119/223名	140/294名	122/247名	150/350名
	「親育ち」支援事業（延団体数/参加者数）	64/3,638名	65/2,449名	55/3,382名	51/2,625名	44/1,835名	37/1,720名	50/2,500名
	子コミュニティ事業支援団体数	-	4団体	4団体	5団体	5団体	8団体	8団体
地域子育て教室延参加者数	303名	320名	484名	264名	224名	81名	400名	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師・託児ボランティア謝礼	2,201	報償費	講師・託児謝礼	1,632	報償費	講師・託児謝礼	2,717
需用費	講師用飲料、消耗品購入	17	需用費	地域教育力向上支援補助	684	需用費	地域教育力向上支援補助	800
使用料等	会場使用料	3	需用費	講師用飲料・消耗品	12	需用費	講師用飲料・消耗品	31
負担金補助・交付金	補助金	654	使用料等	会場使用料	3	使用料等	会場使用料	5

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	参加率(家庭教育学級)(%)	72	72	62	75	80	参加者数/募集定員(延人数)
	実施団体数(あらかわ「親育ち」支援事業)	51	44	37	50	50	延団体数(1団体2回まで)
	参加率(地域子育て教室)(%)	73	69	68	75	80	参加者数/募集定員(延人数)

問題点・課題 (指標分析)	PTA連携家庭教育学級に申し込むPTAが固定化している。 親育ち支援事業で新規サークルからの申し込みが少ない。 乳幼児コースは、託児の申込み数が定員を超え対応できないために、参加を見合わせるケースが出てきている。また、託児対象外の1歳未満の乳児を同伴した受講者から託児の希望がある。
	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
家庭教育のPTA連携事業実施校を拡大するため、PTA総会や各単PTAなどへの周知を行い、実施校を増やす	PTAとの連携をより深めるため、教育委員会の協力を得て、周知していく。
新規サークルが親育ち支援事業を認知できるよう、保健所やふれあい館などでPRしていく。また、新規サークルの立ち上げにあたり、施設予約方法、団体規約の作り方等についてアドバイスをを行う。	26年度の検証を元に、新規サークルの開拓、立ち上げ支援を行っていく。
託児定員の増や託児年齢の見直し、乳幼児を伴いながら受講可能な講座形態など、乳幼児の保護者がより参加しやすい講座について検討する。	26年度の検討を踏まえて、改善を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	子どもたちの基本的な生活習慣や他人への思いやりなどを身につけるための講座の実施は重要であり、引き続き推進する。

議 会 要 旨 問 状	平成26年6月 家庭教育講座の拡充について
----------------------------	-----------------------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-04	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	青少年委員事務費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	高橋・森屋	内線	3351	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-05-01	青少年委員事務費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	33年度	根拠法令等	荒川区青少年委員の設置に関する要綱		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	青少年委員が地域の子ども会や青少年団体、PTAへの活動支援を行うことにより、子ども達の体験活動が充実するとともに、地域の結び付きを深め、青少年が健全に育つ環境と醸成する。						
対象者等	地域の子どもたち 地域の青少年関係団体（荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会、青少年育成地区委員会等） 小・中学校PTA						
内容	<p>【委員数】現員40名 【報酬】月額8,250円</p> <p>【身分】地方公務員法に定める特別職（非常勤職員）</p> <p>【委嘱】青少年の余暇指導及び青少年団体の育成に直接携わり、かつ、相当な実績をあげつつある者に委嘱する。</p> <p>【任期】2年間（6期まで再任可）</p> <p>【対象者】区内在住・在勤者で委嘱時に満60歳未満の者 &lt;荒川区青少年委員連絡会&gt;・・・委員の自主組織（会長、副会長3名、会計2名、会計監査3名）</p> <p>【専門部会】総務部会、調査研修部会、広報部会</p> <p>【実践部会】少年団体育成部会、青年団体育成部会、校庭及び施設利用部会</p> <p>【地域部会】南千住、荒川、町屋、尾久、日暮里の各ブロック ... 青少年育成地区委員会事業への協力等</p>						
経過	<p>昭和28年度 東京都青少年委員制度設置（総数265名：各区市町村から約5名選出、1地域500名で1名）</p> <p>昭和30年度 各小学校区から1名を推薦・委嘱（総数500名余、任期2年）</p> <p>昭和33年度 東京都荒川区青少年委員の設置に関する規則制定</p> <p>昭和38年度 青少年委員制度10周年記念行事</p> <p>昭和39年度 地方自治法一部改正により、事務が各区市町村に移管</p> <p>昭和48年度 青少年委員制度20周年記念行事</p> <p>昭和58年度 青少年委員制度30周年記念行事</p> <p>平成2年度 青少年委員40人体制となる</p> <p>平成5年度 青少年委員制度40周年記念行事</p> <p>平成15年度 青少年委員制度50周年記念行事</p> <p>平成25年度 青少年委員制度60周年記念式典実施</p>						
必要性	青少年の余暇指導や地域・学校との連携等、青少年教育の振興に果たす役割は大きい。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	5,720	5,284	5,766	5,399	5,667	5,771	5,775	
決算額（26年度は見込み）	5,386	4,806	5,006	4,983	5,167	5,187	5,775	
人件費等	8,338	7,045	7,988	7,622	6,196	9,149		
減価償却費			2,760	2,799	2,420	3,718		
【事務分担量】（%）	102	90	95	90	75	110		
合計（+ +）	13,724	11,851	15,754	15,404	13,783	18,054	5,775	
特定財源								
国	0	0	0	0	0	0	0	
都	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	13,724	11,851	15,754	15,404	13,783	18,054	5,775	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
青少年委員連絡会の実施事業数	18	19	16	17	20	18	20	
青少年委員連絡会の協力事業数	36	32	34	34	30	30	30	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	委員報酬	3,960	報酬	委員報酬	3,952	報酬	委員報酬	3,960
報償費	研修会講師謝礼	23	需用費	賄・消耗品・印刷等	575	需用費	賄・消耗品・印刷等	846
旅費	宿泊研修会等旅費	187	旅費	宿泊研修会等旅費	190	旅費	宿泊研修会等旅費	382
需用費	賄・消耗品・印刷等	621	使用料等	宿泊研修会バス借上等	173	使用料等	宿泊研修会バス借上等	303
役務費	委員保険料等	83	負担金補助等	都連合会分担金	129	負担金補助等	都連合会分担金	186
使用料・賃借料	宿泊研修バス借上等	164	役務費	委員保険料等	114	役務費	委員保険料等	75
負担金補助・交付金	都連合会分担金等	129	報償費	研修会講師謝礼	54	報償費	研修会講師謝礼	23

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	青少年委員連絡会定例会への出席率（％）	77.6	71.1	76.6	77	80	出席者数 / （定例会数*40名）
	参加（関連）事業総数（事業）	51	50	48	50	50	主催及び協力事業数

（問題点・課題分析）	青少年の現状を踏まえた、事業のあり方の検討 主催事業と協力事業の整理
他区の実況	（実施 19 区 未実施 3 区 不明 0 区） 平成25年度現在の委員数は、千代田24,中央24,港25,文京30,台東37,墨田28,江東46,品川30,目黒34,大田60,*世田谷64名,渋谷32,杉並43,北64,板橋59,練馬66,*足立107,葛飾73,江戸川61 「*」は、東京青少年委員会連合会（都連）に未加入を示す。

問題点・課題の改善策	
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容
	委員の自主性を尊重しながらもグループワーカーとしての活動の規模や内容を考慮し、事業のあり方を検討する。
	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	26年度の対応を踏まえ、引き続きよりよい事業のあり方を検討する。
	事業効果や必要性を検証し、他自治体の青少年委員活動等も参考に、主催事業及び協力事業の見直しを図る。
	26年度の取り組みを踏まえ、事業の見直し及び新たな事業展開を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青少年の健全育成のために寄与している。

議（要旨）	況（質問状）
-------	--------



# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-05	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	優良青少年団体・個人表彰	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村		
		担当者名	加藤	内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-06-01	優良青少年団体、個人表彰					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	46 年度	根拠	荒川区優良青少年団体・個人表彰実施要綱			
終期設定	有 無	年度	法令等				
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	青少年団体の健全育成と発展のため、特に優れている青少年団体及び団体活動に貢献してきた個人を表彰する。						
対象者等	1. 日常活動が特に優れている少年団体及び青年団体 2. 団体活動に貢献してきた個人						
内容	<実施方法> 1 荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会（以下、荒青連）に表彰候補者の推薦を依頼 2 青少年委員連絡会の役員及び青少年育成部長により組織する審査会に諮問 3 審査会の答申を得て教育長が決定し教育委員会が表彰する 4 子ども会大会、青年大会において表彰予定						
	<審査委員会> 青少年委員連絡会から8名（会長、副会長3名、会計2名、青年団体育成部長、少年団体育成部長）						
経過	・昭和40年 長谷川賞（初代 教育委員会教育委員・長谷川伊三郎氏が私財を投じて設置）が前身 ・昭和46年 教育委員会表彰となる ・平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施						
必要性	青少年団体とその団体活動に貢献してきた個人への表彰は、それまでの活動を賞賛するばかりか、その後の活動にも多いに励みになっている。 青少年団体の活動を活性化するきっかけとして、この表彰の意義は大きい。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	25	25	34	34	28	34	38	
決算額（26年度は見込み）	17	17	9	18	17	18	38	
人件費等	593	689	523	423	496	416		
減価償却費			174	156	194	169		
【事務分担当】（%）	7	6	6	5	6	5		
合計（+ +）	610	706	706	597	707	603	38	
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源	610	706	706	597	707	603	38	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	受賞者数（個人・団体）	2	2	1	2	2	2	4

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
食糧費	審査会賄	1	需用費	記念品・筒・審査会賄	11	需用費	記念品・筒・審査会賄	22
一般需用費	記念品・筒	9	役務費	表彰状筆耕	7	役務費	表彰状筆耕	16
役務費	表彰状筆耕	6						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	団体表彰	1	1	1	2	2	
	個人表彰	1	1	1	2	2	

問題点・課題 (指標分析)	青年団体については、荒青連に推薦依頼をしているが、継続的に活動している新しい被候補者がいない。
	( 実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区 )
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
推薦団体からの推薦に限らず、地域活動に貢献している団体・個人を把握し、多くの推薦個人・団体が審査の対象となるよう、情報収集を行う。	平成26年度の改善内容を踏まえ、推薦候補者が増えるように、引き続き情報収集に取り組む。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青少年の健全育成のために貢献していただくうえで必要である。

議 会 要 旨 問 状	
----------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-06	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	青年団体リーダー研修会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	宮前
				内線	3352		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）							
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）	建設事業	それ以外の継続事業				
開始年度	昭和 平成 41年度	根拠					
終期設定	有 無 平成23年度	法令等					
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準	計画区分	計画	非計画			
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区内の青年リーダーが、団体運営に必要な理論と実技を研修することにより、青年団体リーダーの資質を向上させると共に、青年団体活動の活性化につなげるようにする。						
対象者等	区内の青年団体のリーダー等						
内容	<p>区内の青年が、青年団体のリーダー等としての知識・資質を向上させ、自覚を持つきっかけとなるよう、区内の青年同士や他自治体の青年団体等と交流を図り、また資質・技術向上のための研修を行う。</p> <p>平成23年度（平成24年3月21～22日、岩手県釜石市）は、成人の日のつどいの実行委員である青年の研修として、荒川区の友好交流都市であり、東日本大震災で甚大な被害を受けた釜石市を訪れた。被災地の現状を視察すると共に、「成人の日のつどい」で新成人が作成した「希望」の鶴文字のタペストリーを釜石市の青年に直接手渡し、荒川区と釜石市の青年の交流を図った。</p>						
経過	<p>【交流・研修場所等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成11年度 長野県富士見高原</li> <li>・平成12年度 埼玉県荒川村</li> <li>・平成13年度 福島県福島市</li> <li>・平成14年度 新潟県吉川町</li> <li>・平成15年度 群馬県上野村</li> <li>・平成16年度 未実施</li> <li>・平成17年度 群馬県草津町</li> <li>・平成18年度 未実施</li> <li>・平成19年度 福島県小野町</li> <li>・平成20年度 福井県福井市</li> <li>・平成21年度 静岡県静岡市</li> <li>・平成22年度 群馬県前橋市</li> <li>・平成23年度 岩手県釜石市（区内青年である成人の日のつどい実行委員の研修として実施）</li> <li>・平成24年度～ 荒川区青年団体連合会の活動が厳しく、参加可能な青年リーダーの不足により未実施</li> <li>・平成26年度 青年団体連合会の自主活動として、実施予定</li> </ul>						
必要性	青年リーダー候補者が他自治体の青年活動を知り、活動活性化につなげるためのリーダー研修会の必要性は高い。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		822	440	479	880	0	0
決算額（26年度は見込み）		706	229	222	528	0	0	0
人件費等		1,355	1,303	1,657	3,439	826		
減価償却費				552	1,368	323		
【事務分担量】（%）		16	13	19	44	10		
合計（+ +）		2,061	1,532	2,431	5,335	1,149	0	0
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		2,061	1,532	2,431	5,335	1,149	0
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	交流した自治体	福井県福井市	静岡県静岡市	群馬県前橋市	釜石市	なし	なし	なし
	参加者数	16人	9人	13人	14人	なし	なし	なし

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費		0						
職員旅費		0						
一般需用費		0						
使用料・賃借料		0						
負担金補助・交付金		0						
役務費		0						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	参加者数（人）	14	0	0	0	0	
	青年団体連合会の加盟団体数	5	5	5	5	10	

（問題点・課題分析）	対象となる青年リーダーが加盟している荒川区青年団体連合会の活動実態に合わせて、実施方法を検討する必要がある。 青年団体連合会の活動に限らず、青年リーダーの発掘や育成を目標とする新たな研修内容・方法を検討していく必要がある。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	荒川区青年団体連合会が、対象である青年リーダーを育成できるよう、自主事業等（他自治体とのリーダー交歓会等）を通して協力する。	青年団体連合会と協力し、研修を実施する。
	新たな青年リーダーを発掘するため、成人の日のつどい実行委員や区内各団体への声掛け、組織化を図る	新たな青年リーダーが何を求めているか、企画から参加してもらい、より効果的な研修内容とする。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
改善・見直し	継続	青年団体連合会への加盟団体及び団体構成員の減少等により活動が縮小している現状を踏まえ、青年団体の新たな育成・支援策を検討すると共に、連合会以外の青年リーダーを発掘する。

議会（要旨）	H24 予特 H25 予特	23年度の青年大会は未実施であった。荒青連が活発化するように区でも支援を。 青年団体の育成・支援をしっかりとってほしい。
--------	------------------	---

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-07	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	心身障がい者青年教室「さくら教室」	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	松本
				内線	3354		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-07-01	心身障がい者青年教室					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	41年度	根拠法令等	無し		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区立中学校特別支援学級卒業生及び在住・在勤の心身障がい者が、継続的・計画的な講座を受講することにより、余暇活動を充実させるとともに、自主性・社会性・協調性を身につけることができるようにするため支援する。						
対象者等	区立中学校特別支援学級卒業生及び区内在住・在勤の心身障がい者。						
内容	<p>知的障がい者の知識や技能の習得や余暇活動の充実、個性や特性を發揮する場の創設を目的に、教室を開催する。</p> <p>【会場】荒川区立第一中学校他                  【日時】年間17回、日曜日、午前9時15分～（半日または1日）                  【内容】クラブ活動（パソコン・音楽・美術・調理・生花・スポーツ）、学級活動、校外学習                  水泳・室内レク、城北ブロック合同レクリエーション大会、お楽しみ会、作品展                  【協力】保護者、家族・手をつなぐ親の会・青少年委員・荒川区水泳連盟・障害者スポーツ指導員</p>						
経過	昭和41年度 職業実習科卒業生を対象に開設（年22回） 昭和57年度 城北ブロック合同レクリエーション大会開始 平成14年度 作品展会場を区役所1階ロビーより町屋文化センターに変更 平成18年度 愛称名を「きょうようこうざ」から「さくら教室」に変更 平成22年度 スポーツクラブを新設、6クラブ体制に。 学級活動名称を毎年受講生の希望でつけるように変更（旧：全員スポーツ） 平成24年度 旧真土小が使用不可になったことに伴い、お楽しみ会の実施場所を生涯学習センターへ移行。 そのため、参加させてもらっていた同時開催の手をつなぐ親の会の餅つき会も無くなった。 平成25年度 お楽しみ会で「クリスマス会」を開催した 平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課において、教育委員会事務の補助執行として実施						
必要性	生涯学習の機会が少ない心身障がい者に対して、社会人として必要な自主性・社会性・協調性、教養を身につけることを支援する事業として必要である。 また、継続的に講座を行うことで、受講生どうしの交流を支援する事業としても必要である。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 常勤、非常勤の他、民間講師やボランティアによって運営されている。						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		1,908	2,063	2,271	2,176	2,296	2,217
決算額（26年度は見込み）		1,734	1,952	2,097	1,857	1,942	2,100	2,243
人件費等		8,973	9,326	10,360	9,651	9,047	9,670	
減価償却費				5,229	5,443	5,486	6,861	
【事務分担量】（%）		89	170	180	175	170	203	
合計（+ +）		10,707	11,278	17,686	16,951	16,475	18,631	2,243
実績の推移	特定財源							
	国							
	都							
	その他							
	一般財源	10,707	11,278	17,686	16,951	16,475	18,631	2,243
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	延べ参加受講生数（人）	909	1,018	1,058	1,135	1,076	1,074	1,394
	受講生数（人）	63	71	75	83	82	81	82



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師等謝礼	1,618	報償費	講師謝礼	1,683	報償費	講師謝礼	1,804
旅費			使用料等	作品展会場付帯設備、バス借り上げ等	262	使用料等	作品展会場付帯設備、バス借り上げ等	264
食糧費	合同レク大会来賓賄等	11	需用費	消耗品費等	90	需用費	消耗品費等	106
一般需用費	消耗品	75	役務費	申込八ガキ等	65	役務費	申込八ガキ等	65
役務費	申込八ガキ等	69	旅費	職員旅費	0	旅費	職員旅費	4
使用料・賃借料	作品展会場付帯設備、バス借上等	169						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	受講生(人)	83	82	81	82	83	現状を維持する
	平均参加率(%)	81	77.6	78.1	90	100	各回参加率合計 / 開催回数

（問題点・課題） （指標分析）	【受講生増加への対応】 21年度より、一中・尾久八幡中に加え、王子・墨田・足立特別支援学校や区内知的障がい者関連施設等幅広く周知したところ、受講生が大幅に増加した。22年度はスポーツクラブを新設し、クラブ活動の選択肢を増やしたが、今後も引き続きプログラムの整備が必要である。
	【スタッフ不足・高齢化】 受講生の増加に伴い、従事するスタッフが不足している。また、スタッフの高齢化により、若い世代のスタッフの育成が急務である。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
アンケートを実施し、受講生・保護者・スタッフのニーズを参考にしながら、幅広い年齢層に対応できるようなプログラムを検討する。	平成26年度の検討をふまえ、受講生等のニーズに合わせた内容を実施する。
新たなスタッフを育成すべく、体験ボランティアの受け入れを積極的に推進すると共に、体験終了者のスタッフ参加を促進する。	スタッフが柔軟に参加できるように、参加方法の見直しを行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	心身障がい者の自主性・社会性・協調性を養うため、継続して実施する。

議（要旨） 会（質問） 質（状況）	24二定（H24.6） 知的障がい者が学び成長できる場の支援の充実を
-------------------------	------------------------------------



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	あらかわ青年大会補助	0	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950	負担金補助等	あらかわ青年大会補助	950

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	出演団体数	0	0	9	15	20	
	実行委員数	0	0	60	70	70	

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の核となる荒川青年団体連合会の活動を活性化させる必要がある。</li> <li>・広く区民一般に楽しんでもらうため、基本的に無料としており、必要経費については全て補助金を充てているが、今後は一部自主的な運営ができるよう支援していく必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	青年団体連合会が、実行委員会の核となって青年大会を実施できるよう、協力する。	平成26年に引き続き、協力しながら、新しく実行委員となってもらえるような青年の参加を促す。
	実行委員の自主財源による事業の実施について、情報提供を行う。	平成26年に引き続き、一部自主財源で実施できるような方法を検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青年の交流の場の提供及び新しい青年育成の場、また、区民楽しめるイベントを実施する事業として、継続して実施する。

議会議決要旨	平成24年予特 平成25年予特	23年度の青年大会は未実施であった。荒青連が活発化するように区でも支援を。青年団体の育成・支援をしっかりとってほしい。
--------	--------------------	---

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-09	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	成人の日のつどい		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	森屋・松本	内線		3352
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-06-03	成人の日のつどい					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	29年度	根拠	「成人の日の行事について」文部事務次官通達		
終期設定	有	無	年度	法令等	（昭和31年12月10日）		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	成人に達した門出を祝福すると共に、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促す。また、実行委員となった新成人には、地域への愛着を強め、地域活動への関心を深めるきっかけとなるようにする。						
対象者等	平成25年度 平成5年4月2日～平成6年4月1日生まれの方 平成26年度 平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれの方						
内容	平成26年度 平成27年1月12日（月・祝） 12:00～14:30 【平成25年度の内容】 第1部 記念式典：国歌斉唱、ひぐらし小児童による合唱、主催者挨拶、成人の誓い、来賓祝辞、来賓紹介、主催者紹介、 第2部 ・恩師からのVTR上映 ・めざせ！荒川マスター！！（荒川を知ってもらうためのクイズを会場全体で実施） 第3部 ミニパーティー、書き損じハガキ回収、「いつ するの？今でしょ！」ボード（メッセージボード設置） 会場 第1・2部：大ホール 第3部：小ホール、第1～7集会室						
経過	昭和55年度 「成人の日のつどい実行委員会（企画・運営スタッフ会）」を新成人を募り設置。参加者自身の手で作りに上げる方式を採用。区報で募集のほか、中学校等より推薦のあった新成人で構成。記念品の選定や、案内ハガキのデザイン、2部・3部の企画、運営を担当。 平成22年度 司会を実行委員から専門家に変更し、また入場方法についても工夫をした結果、より厳粛な式典が実施できるようになった。なお、2部・3部については、実行委員による運営を実施。 平成23年度 成人式を終えた実行委員に「アドバイザー」として次年度以降の実行委員会に参加を促した。						
必要性	新成人の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促すために必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 平成25年度 主催：荒川区・荒川区教育委員会・荒川区選挙管理委員会 協力：新成人実行委員14名・アドバイザー6名、青少年委員32名他						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		3,204	3,204	3,257	3,029	3,093	2,973
決算額（26年度は見込み）		2,357	2,318	2,711	1,620	2,364	2,374	2,856
人件費等		3,388	3,665	5,808	4,764	3,840	4,224	
減価償却費				2,527	2,489	2,259	2,400	
【事務分担量】（%）		40	45	87	80	70	71	
合計（+ +）		5,745	5,983	11,046	8,873	8,463	8,998	2,856
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源		5,745	5,983	11,046	8,873	8,463	8,998	2,856
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	対象者（人）	1,820	1,758	1,813	1,811	1,687	1,735	1,794
	参加者（人）	1,018	916	960	972	860	888	1,076
	参加率（%）	55.9	52.1	53	54	51	51	60
	記念品	手回し式携帯電話充電器	セラミックボールペン	フォトフレーム	オリジナルタンブラー	シースルーアラームクロック	ステンレスマグカップ	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	謝礼	46	需用費	謝礼	2,016	需用費	謝礼	2,264
食料費	ミニパーティー賄等	707	使用料等	ミニパーティー賄等	217	使用料等	ミニパーティー賄等	286
一般需用費	記念品等	1,290	役務費	記念品等	95	報償費	記念品等	144
役務費	吊看板・立看板	96	報償費	吊看板・立看板	46	役務費	吊看板・立看板	105
委託料	ビデオレター編集委託	0	委託料	DVD作成委託等	0	委託料	DVD作成委託等	57
使用料・賃借料	会場使用料・トラック借上	226		会場使用料等			会場使用料等	

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	式典参加率（％）	54	51	51	60	60	参加数 / 対象者数
	実行委員数（公募数）	14(2)	18(2)	14(5)	15(8)	15(8)	
	実行委員会参加率	51	67	67	100	100	参加延べ数 / 実行委員数*回数

（問題点・課題） （指標分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人の日のつどいへの参加率は50%程度で推移しているが、さらに多くの新成人に参加してもらえよう、周知及び内容の充実を図る必要がある。</li> <li>・成人の日のつどい実行委員の応募については、区報・HP等による公募委員が増加してきているが、学校推薦の委員が多数である。より積極的な参加意志を持つ委員に多く参加してもらうために、公募方法等の改善を図る。</li> <li>・サンパール荒川の大規模改修に伴う会場変更について、円滑に実施ができるよう早急に検討する。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 【25年度参加率(%)】千代田82、中央69、港53、新宿39、文京61、台東56、墨田59、江東69、品川55、目黒55、大田59、世田谷68、渋谷47、中野49、杉並48、豊島46、北54、板橋55、練馬67、足立60、葛飾62、江戸川59【記念品無】12区【実行委員会形式】14区

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	実施内容だけでなく、参加率を上げるためのPR方法等についても、実行委員、アドバイザー等の意見を聞きながら検討していく。	平成26年度の検討内容を踏まえ、より参加率があがるよう改善していく。
	実行委員の応募について公募等が増えるよう、アドバイザー等にも意見を聞きながら工夫すると共に、役割をより具体的にし、積極的な参加を推進する。	平成26年度の改善内容を踏まえ、より公募等が増えるよう工夫すると共に、アドバイザーが、成人の日のつどいだけでなく、広く地域活動に参加できる場を提供する。
	平成27年度サンパール荒川の大規模改修に伴い、会場変更等、実施方法について検討する。	

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	成人を祝うとともに、成人としての権利と義務、責任・自覚を促す事業として継続して実施する。

議 会 要 旨 状	H18決特 二部のパーティー内容の充実について H23予特 荒川公園など屋外での実施の可能性について
-----------------------	---



# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-10	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	吹奏楽コンサート		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	加藤	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-06-04	吹奏楽コンサート					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	52年度	根拠法令等	無し		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区内の小・中・高校等の吹奏楽部や、卒業後も活動を続けている青少年に、日頃の練習成果の発表の場提供するとともに、区民が身近で音楽文化に触れる機会を提供する。						
対象者等	青少年及び一般区民						
内容	平成26年度 1 主催 吹奏楽のつどい実行委員会・荒川区 2 実施日 27年3月22日（日） 3 場所 サンパール荒川（大ホール） 4 参加団体 11団体（予定） 社会人団体：4団体 高等専門学校：1団体 高等学校吹奏楽部：1団体 中学校吹奏楽部：2団体 小学校金管バンド：3団体						
経過	昭和56年度（第1回）～「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」自主事業として実施 3団体参加 昭和60年度～教育委員会の主催で「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」を実施 6団体参加 平成6年度～教育委員会と荒川区に吹奏楽を育てる会主催で実施 14団体参加 平成19年度「吹奏楽のつどい実行委員会」の主催となる 平成22年度 東日本大震災のため中止						
必要性	区内の吹奏楽団体の成果発表の機会提供及び荒川区の文化向上のために必要な事業である。						
実施方法	( 2一部委託 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	468	618	618	609	598	598	610	
決算額（26年度は見込み）	450	483	16	453	447	455	610	
人件費等	1,355	896	960	932	909	832		
減価償却費			320	342	355	338		
【事務分担当】（%）	16	11	11	11	11	10		
合計（+ +）	1,805	1,379	1,296	1,727	1,711	1,625	610	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	1,805	1,379	1,296	1,727	1,711	1,625	610	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
出演団体数	10	10	0	10	11	11	11	
入場者数	1,000	1,000	0	945	900	830	1,000	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
一般需用費	ポスター	16	使用料等	会場費・トラック	378	使用料等	会場費・トラック	525
委託料	照明	60	委託料	照明	61	委託料	照明	67
使用料・賃借料	会場費・トラック	370	需用費	ポスター	16	需用費	ポスター	18

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	出演団体数	10	11	11	11	12	
	来場者数	945	900	830	1,000	1,000	

（問題点・課題分析）	・「吹奏楽のつどい」のプログラムや内容等の充実を図り、来場者が音楽文化に親しむことができるよう、より様々な年代の参加団体を増やしていくことが必要である。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
実行委員会による運営がより効率的に行われるよう、会場運営やPRについて助言や支援をする。	実行委員会による運営がより一層効率的に行われるよう、積極的に助言や支援をする。
参加団体が増えるよう、各学校や団体に声かけをしていくと共に、団体がより参加しやすいような実施日程・会場なども検討する。	26年度に検討した内容を踏まえて対応する。
平成27年度サンパール荒川の大規模改修に伴い、会場変更等、確実な準備をしておく。	

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青少年の音楽活動の成果を発表する場、および区民が音楽文化に触れることのできる場として、継続して実施する。

議会議況（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-11	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	小中学校の公開講座	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	加藤
				内線	3355		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	--						
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）	建設事業	それ以外の継続事業				
開始年度	昭和 平成	6 年度	根拠法令等	荒川区立小中学校公開講座実施要綱			
終期設定	有 無	25 年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が身近な小中学校で、教員が講師となり、多様な学習機会を提供する。						
対象者等	区内在住・在勤・在学の18歳以上の方						
内容	<p>概要 小中学校の教員等が講師となり、区民を対象とした講座を開催する。</p> <p>実施校の募集 毎年4月</p> <p>実施日時・期間 1回2時間で計5回とし、実施日時は学校による（ただし、夜間や学校休業日等の通常の勤務時間外）</p> <p>実施内容（平成25年度実績） 3講座実施 IT系3校【パソコン教室2校（一日小・三中）】 美術系1校【木版画1校（一中）】 中止となった講座...1講座【パソコン教室（尾久小）】</p>						
経過	<p>13年度 IT（別事業として実施）講習のために、パソコン関係を除く7講座に縮小</p> <p>14年度 IT講習終了に伴い、講座数を10講座に戻す。チャレンジサタデー教室（公開講座）を含む</p> <p>17年度 12講座を募集し、11講座開催 18～21年度 12講座を募集し、10講座開催</p> <p>22年度 生涯学習推進計画で公開講座におけるIT講座の実施があげられたため、パソコン教室を4講座に増やし、計13講座開催</p> <p>23年度 7校8講座実施</p> <p>24年度 7校9講座実施</p> <p>25年度 総務企画課からの『改善対象事務事業シート』に基づき、事業の必要性を再検討した結果、予算措置上、IT 5 講座 + 予備 1 講座とした。4講座を募集し、3講座開催（定員割れにより1講座中止）</p> <p>26年度 区民のニーズが多様化し、参加者数が減少したため、平成25年度で事業終了</p>						
必要性	参加者減により中止となる講座が増えたことや、IT 講座については生涯学習センター等で実施しているため、平成25年度で事業終了した。						
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>各小中学校に開催希望を聞いて、実施を決定。講師謝礼及びチラシ等に要する経費については生涯学習課で負担。消耗品については受益者負担。</p>						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	900	900	974	1,010	1,010	509		
決算額（26年度は見込み）	752	720	974	560	646	230		
人件費等	932	896	1,395	1,355	909	166		
減価償却費			465	498	355	68		
【事務分担量】（%）	11	11	16	16	11	2		
合計（+ +）	1,684	1,616	2,834	2,413	1,910	464	0	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	1,684	1,616	2,834	2,413	1,910	464	0	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
小学校	6校	5校	7校	3校	4校	2校		
中学校	3校	4校	5校	4校	3校	1校		
講座数	10講座	10講座	13講座	8講座	9講座	3講座		
受講者数	194人	167人	178人	106人	134人	131人		

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼・助手謝礼	646	報償費	講師謝礼・助手謝礼	230			

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	講座数	8	9	3			
	実施校	7	7	3			
	申込み率(%)	91	78	69			申込者数 / 募集定員

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師となる教諭の人事異動等により講座が継続できなくなるなど、安定した運営が難しい。</li> <li>他の生涯学習講座との競合がある。</li> <li>参加者数の実情や区民の需要等を見極めた結果、平成25年度で事業終了した。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
応募が少なく取りやめとなる講座が増加したことや、他施設で類似講座が実施されていることなどを考慮し、平成25年度をもって事業を終了する。	

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
休止・完了	休止・完了	平成25年度で事業終了。

議（要旨）	
-------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-12	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川区文化祭		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	加藤	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-10-01	文化祭					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	27年度	根拠法令等	無し		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が日頃研鑽を重ねている様々な文化活動の成果を、広く区民に発表する場を提供すると共に、更なる活動意欲の向上、文化の向上を図る。						
対象者等	各団体会員と区民一般						
内容	各団体（平成26年度は21団体）が、文化の日を中心に大会、展示会を行っている。 日本舞踊大会（荒川区日本舞踊連盟） 区民音楽会（荒川区音楽連盟） 写真展（全荒川写真連盟） 民踊大会（荒川区民踊連盟） 謡曲大会<観世流・宝生流>（荒川区謡曲連盟） 華道展・茶席（荒川区華道茶道文化会） 俳句大会・展示会（荒川区俳句連盟） 囲碁大会（荒川区囲碁連盟） 民謡大会（荒川区民謡協会） 菊花展（荒川菊花会） 詩吟と剣舞の大会（荒川区吟剣詩舞道連盟） 盆栽展（荒川盆栽山野草会） 盤景展（荒川盤景会） ソシアルダンス大会（荒川区ソシアルダンス連盟） 書道展（荒川区書道連盟） 美術展（荒川区美術連盟） 大太鼓盆踊り大会（荒川区大太鼓連盟） 邦楽大会（荒川区邦楽連盟） バレエコンサート（荒川区洋舞連盟） 歌謡大会（荒川区歌謡協会） さつき紅葉実物展（荒川区臯月会）						
経過	平成元年度 21団体参加 平成13年度 22団体参加 荒川区歌謡協会加盟 平成15年度 23団体参加 荒川区臯月会加盟 平成17年度 22団体参加 荒川区美術刀剣連盟退会（17年5月） 平成23年度 荒川区文化祭60周年記念行事（式典・子ども向け事業）実施 平成26年度 21団体参加予定 荒川史談会退会（26年5月）						
必要性	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動の成果を発表することにより、活動をさらに充実させる機会となっているため、必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 主催：荒川区・荒川区文化団体連盟 主管：連盟加盟各団体						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		6,320	6,414	6,536	7,129	6,294	6,029
決算額（26年度は見込み）		5,732	5,753	5,665	6,514	5,398	5,446	6,146
人件費等		7,369	6,108	6,645	6,455	6,444	7,319	
減価償却費				2,411	2,581	2,840	2,974	
【事務分担量】（%）		87	75	83	83	88	88	
合計（+ +）		13,101	11,861	14,721	15,550	14,682	15,739	6,146
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源		13,101	11,861	14,721	15,550	14,682	15,739	6,146
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	出演・参加者数	3,185	2,544	2,246	2,621	2,460	2,657	3,500
	出品者数	991	823	956	2,105	1,684	1,550	2,500
	参観者数	16,776	17,319	16,484	16,307	13,987	15,589	19,000



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼	223	使用料等	会場使用料等	3,345	使用料等	会場使用料等	3,773
一般需用費	プログラム等	634	委託料	会場設営委託	947	委託料	会場設営委託	999
役務費	筆耕料・保険料等	369	需用費	プログラム等	546	需用費	プログラム等	675
委託費	会場設営委託	835	役務費	筆耕料・保険料等	355	役務費	筆耕料・保険料等	423
使用料・賃借料	会場使用料等	3,336	報償費	講師謝礼	253	報償費	講師謝礼	276
負担金補助・交付金								

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	参加者・観覧者数	21,033	18,131	15,589	25,000	25,000	
	大会&展示会数	25	25	25	25	25	

（問題点・課題分析）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者や観覧者が固定化する傾向にあるため、広く区民に周知する必要がある。</li> <li>・団体構成員の高齢化が進んでいるため、新しい人材を積極的に取り込み、各団体の活性化を図る必要がある。</li> </ul>
	他区の実況 （実施 20 区 未実施 2 区 不明 0 区）

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	参加者・観覧者を増やすため、チラシの配布場所やホームページの活用等周知方法を工夫する。	26年度の改善内容を引き続き実施し、文化団体の活動に関心を持つ人を増やし、ひいては文化祭への参加者・観覧者数を増やしていく。
	伝統文化子ども教室や文化総合講座に参加している子どもの作品の展示と併せて、文化祭期間中に子供や親子向けの講座等の実施を検討する。	26年度の改善内容を踏まえ、文化活動に関心を持つ子ども・保護者を増やすことにより、区民の文化向上につなげていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民の文化向上のために、寄与している。

況議 （要 質 問 状）	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-13	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化団体連盟補助		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	加藤	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-10-02	文化団体連盟補助					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	39年度	根拠	荒川区補助金交付規則		
終期設定	有	無	年度	法令等	荒川区文化団体補助金交付要綱		
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民の文化向上のために実施する事業を奨励し、文化活動の中心的な役割を果たしている文化団体を統括する団体（荒川区文化団体連盟）に対し支援する。						
対象者等	荒川区文化団体連盟 加盟団体（21団体）						
内容	<p>目的を達成するため、次の事業に対し補助金を交付する。</p> <p>（1）加盟各文化団体相互の親睦と情報の交換</p> <p>（2）文化祭等、行事への参加または協力</p> <p>（3）その他、目的達成のために必要な事業</p> <p>【加盟団体】21団体          荒川区日本舞踊連盟 荒川区音楽連盟 全荒川写真連盟 荒川区民踊連盟 荒川区謡曲連盟          荒川区華道茶道文化会 荒川区俳句連盟 荒川区囲碁連盟 荒川区民謡協会 荒川菊花会          荒川区吟剣詩舞道連盟 荒川盆栽山野草会 荒川盤景会 荒川区ソーシャルダンス連盟 荒川区歌謡協会          荒川区皐月会</p>						
経過	平成元年度 21団体加盟 平成13年度 22団体加盟 荒川区歌謡協会 加盟 平成15年度 23団体加盟 荒川区皐月会 加盟 平成17年度 22団体加盟 荒川区美術刀剣連盟 脱退 平成26年度 21団体加盟 荒川史談会 脱退						
必要性	会員及び一般区民が日頃から取り組んでいる文化活動を支援することにより、文化活動をさらに充実させるため必要である。						
実施方法	（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980
決算額（26年度は見込み）		1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980	1,980
人件費等		769	932	960	932	909	832	
減価償却費				320	342	355	338	
【事務分担量】（%）		9	11	11	11	11	10	
合計（+ +）		2,749	2,912	3,260	3,254	3,244	3,150	1,980
特定財源の推移	国							
	都							
	その他							
	一般財源		2,749	2,912	3,260	3,254	3,244	3,150
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	団体数	22	22	22	22	22	22	21

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	文化振興補助金	1,980	負担金補助等	文化振興補助金	1,980	負担金補助等	文化振興補助金	1,980

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	連盟加盟団体数	22	22	22	21	22	

問題点・課題 (指標分析)	団体役員及び所属会員の高齢化のため、新会員の加入促進を積極的に図る必要がある。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 文化財団等への補助及び事業補助を含む
他区の実況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	各文化団体の実施事業について区民に周知し、文化活動の魅力を伝えられるよう協力する。	引き続き、26年度の改善内容踏まえ、会員の加入促進につながるよう協力し、団体の活性化を図る。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	文化団体を支援することにより、区民の文化の向上に寄与できている。

議会 (要旨) 質問状	
-------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-14	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化講座補助		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	加藤	内線	3355	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-10-03	文化講座					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	元年度	根拠	荒川区補助金交付規則、荒川区町屋文化センター文化講座補助金交付要綱			
終期設定	有 無	年度	法令等				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が安価で参加できる講座を安定して実施するため、荒川区文化団体連盟主催する文化講座に対し支援する。						
対象者等	文化団体連盟						
内容	<p>【内容】文化団体連盟の自主事業である文化総合講座に対して補助する。</p> <p>【会場】町屋文化センター</p> <p>【実施方法】4月期、7月期、10月期、1月期の3ヵ月を単位として受講生を募集する。</p> <p>【補助対象経費（平成25年度実績）】 会場使用料、チラシ印刷、チラシ折込、受講証印刷、文化総合講座学習成果発表会、ポスター印刷</p> <p>【主な講座】 ジュニアアート25/160 囲碁135/160 土曜歌謡125/120 童謡を歌う会229/260 水彩画115/128 実用文字B 55/160</p> <p style="text-align: right;">〔受講者（人）/定員（人）〕</p>						
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成元年1月～3月まで、町屋文化センター開設に合わせて開講。当初は、講師が教室運営を行った。</li> <li>・平成元年4月～ 運営委員会を組織し、教室運営を行った。</li> <li>・平成13年度 会場使用料を全額補助から半額補助に変更した。それに伴い、受講料を100円値上げした。</li> <li>・平成14年度 ジュニア向け講座として7月より囲碁、10月より書道・美術を開講</li> <li>・平成19年度 区制75周年に伴い、子ども・高齢者対象の事業やボランティア活動を実施している団体への支援を行った。</li> <li>・平成22年度 震災により学習発表会を中止</li> </ul>						
必要性	連盟の主催する各講座は、地域の人材を活用し、区民に様々な生涯学習の機会を与えるとともに、日本の伝統文化の継承を担っており、その必要性は年々高まってきている。						
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>文化団体連盟による運営委員会方式 運営委員長：松田全代（荒川区邦楽連盟）（H24.5就任） 運営委員数：4名（委員長1名、会計2名、書記1名）</p>						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	3,153	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	
決算額（26年度は見込み）	3,153	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	3,353	
人件費等	932	896	969	932	909	832		
減価償却費			320	342	355	338		
【事務分担量】（%）	11	11	11	11	11	10		
合計（+ +）	4,085	4,249	4,642	4,627	4,617	4,523	3,353	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	4,085	4,249	4,642	4,627	4,617	4,523	3,353	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
講座数	28	28	29	29	29	29	29	
受講者数	2,103	2,093	2,154	1,927	1,927	1,945	2,120	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353	負担金補助等	文化総合講座補助	3,353

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	受講率%	59	59	59	70	70	受講生 / 定員
	ジュニア向け講座受講率%	49	36	36.5	50	70	受講生 / 定員

（問題点・課題分析）	定員に達していない講座があり、日本の伝統的文化の継承の意義とコスト、両面から実施内容を検討していく必要がある。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
参加者数の増と伝統文化の継承のため、ジュニア講座を強化し、子どもの参加者を増やす。	26年度の改善内容を踏まえ、子どもの参加者を増やすとともに伝統文化の継承を図っていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	多様な区民の文化向上のための講座を実施している。

議（要旨）	
-------	--





予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500	負担金補助等	女性団体補助金	500

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	補助団体数	5	5	5	5	5	

（問題点・課題分析）	会員の高齢化が進んでおり、若年層の加入促進が必要である。
	（実施 2 区 未実施 20 区 不明 0 区） 千代田区、港区が団体補助または事業補助を実施。
（状況の実）	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	家庭教育講座への協力等において、子育て世代等の若年層との交流を深める機会をつくる。	平成26年度の取り組みを踏まえ、活動に対し指導助言を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	地域活動や生涯学習の発展に寄与している。

（議会要旨）	
--------	--



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	青年団体連合会補助金	181	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257	負担金補助等	青年団体連合会補助金	257

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	加盟団体数	10	5	5	5	10	

問題点・課題 (指標分析)	・余暇活動の多様化などにより、青年が団体で活動することが少なくなり、荒川区青年団体連合会に加盟する団体が減少しているため、活発な活動がされていない。
	他区の実況 (実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区)

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
組織化していない青年層(成人の日のつどい実行委員・大学生等)や区内で活動する青年グループに周知し、各種イベントを通じて団体活動の魅力を感じてもらい、団体の加入促進を図る。	平成26年度に引き続き、団体活動をしていない青年層を発掘し、加盟団体を増やす。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	青年団体連合会を支援することにより、青年による地域活動の発展に寄与することができる。

議会 (要旨) 状況	H24 予特 H25 予特	23年度の青年大会は未実施であった。荒青連が活発化するように区も支援を。青年団体の育成・支援をしっかりとってほしい。
------------------	------------------	--





予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助・交付金	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300	負担金補助等	荒少連補助金	300

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	加盟団体数（団体）	20	20	20	16	22	
	個人会員数（名）	131	126	125	124	150	
	シニアリーダー数（名）	15	22	19	12	30	

（問題点・課題分析）	補助団体である荒少連は、子どもの体験活動等に広い知識と実績を持つ育成者の団体であるが、近年、地域で子どもを育てるという意識が薄れている現状から、加盟団体及び個人会員数が年々減少している。子ども達の安全な体験活動の実施のためには、育成者である会員数の充実が必要である。
	（実施 10 区 未実施 12 区 不明 0 区） 東京都子ども会連合会加盟団体
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
子ども会大会や加盟団体交流会等の行事の中で、加盟団体同士の交流を図り、子ども会の数の維持や個々の子ども会活動の充実につながるよう支援する。	26年度の改善内容を継続して推進し、子ども会数の維持・拡充に努めていく。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	子ども体験活動を支えている団体へ支援することにより、青少年の健全育成に寄与することができている。

議会議事録（要旨）	
-----------	--



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師・託児謝礼	67	報償費	講師・託児謝礼	70	報償費	講師・託児謝礼	90
一般需用費	講座用消耗品費	7	需用費	講座用消耗品費	0	需用費	講座用消耗品費	8

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	講座の参加者数	51	44	50	90	90	

（問題点・課題分析）	生活の中で身近な、高齢者・外国人・障がい・性・ワークライフバランス・児童虐待・いじめ・命等を広く人権問題として捉えるとともに、社会情勢等を踏まえ、講座の内容や効果を検討する必要がある
	（実施 16 区 未実施 6 区 不明 0 区） 東京都教育庁地域教育支援部の人権教育事業実施状況調査（H22.3）より。 教育委員会以外の調査は反映されていない

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
C A P 講座の区内全地区で実施終了に伴い、新たな講座を企画・実施する。	平成26年度に引き続き、新たな講座を企画・実施する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民の人権教育を推進するため、継続して実施する。

況議 （要 質 問 状）	
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-19	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	社会教育サポーター		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	萩原	内線		3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-13-01	社会教育サポーター					
事務事業の種類	新規事業	（26年度	25年度）	建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	17年度	根拠	荒川区社会教育サポーター設置要綱（平成26年度制定）		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	生涯学習に関する知識、技能、経験を持つ区民が、自らの学びを活かし社会教育関係団体、地域団体などが行う学習活動等を支援することで、青少年の健全育成や様々な区民の生涯学習に対するニーズに応える。						
対象者等	地域団体（町会・女性・高齢者・青少年対策地区委員等） 社会教育団体（青少年委員・PTA・文化・伝統工芸技術・少年・青年等） 前記団体・教職員等のOB 知識・技術・経験をもつ地域活動に関心をもつ18歳以上の区民。						
内容	<p>生涯学習に関する知識、技能、経験をもち青少年や地域のために、自らの学びを活かし活動することを希望する区民（18歳以上）を、社会教育サポーターとして登録。</p> <p>派遣団体の依頼により、生涯学習課がコーディネート。</p> <p>社会教育サポーターは、生涯学習を進める団体の求めに応じ、講師、活動支援、託児等の活動を行う。毎年度、登録継続の有無を確認。（平成22年度より）、継続したサポーターについてはボランティア保険に加入する。</p> <p>全体会の内容 講演と体験発表・講師：中村好江氏「地域における生涯学習支援活動の現状と課題」講演と体験発表・講師：松田道雄氏「これからの日本の地域活動と、そこで活躍できる社会教育サポーターの活動内容」講演とグループワーク・地域活動見本市。講師：笹井宏益「笑顔あふれる地域活動のススメ」講話とグループワーク、地域活動団体の展示・発表。：ワクワク・フェスタin西尾久ふれあい館（サポーターが活動を実践後、活動を体験した参加者とサポーターの意見交換。）等</p>						
経過	<p>平成17年度、区内の青少年団体等に、活動の指導・助言を行うことにより、青少年の健全育成と活動の活性化を図ることを目的に、教育委員会事務局社会教育課の社会教育事業として事業開始。</p> <p>平成19年度から、社会教育サポーター通信の発行。</p> <p>平成21年度、要綱改正。青少年団体以外の派遣依頼が増えたため対象を生涯学習全般に広大。また子育てサポーター講習修了生の活動の場と共に、子育て世代の生涯学習機会の拡充を図るため、活動分野に「託児」を加えた。</p> <p>平成26年度 組織改正により地域文化スポーツ部生涯学習課の生涯学習事業として要綱策定し事業実施。</p>						
必要性	学習成果を地域に生かす取り組みとして、「荒川区生涯学習推進計画」の重点目標「地域活動を担うネットワークづくり」に欠かせないものであり、多様化する区民の生涯学習に関するニーズに応えるためにも、必要性は高い。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	200	210	114	109	143	104	88	
決算額（26年度は見込み）	115	57	60	43	49	23	88	
人件費等	853	1,141	1,273	1,378	1,444	1,161		
減価償却費			1,017	1,244	1,323	913		
【事務分担量】（%）	30	42	35	40	41	27		
合計（+ +）	968	1,198	2,350	2,665	2,816	2,097	88	
特定財源								
国								
都								
その他								
一般財源	968	1,198	2,350	2,665	2,816	2,097	88	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
社会教育サポーター登録数	180	213	120	133	125	125	150	
社会教育サポーター活用数	70	44	64	66	42	83	90	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	サポーター講習会	23	役務費		17	役務費		45
食糧費	全体会、委員会	6	需用費		6	報償費		26
一般需用費	消耗品	0	報償費		0	需用費		17
役務費	傷害保険料	16						
使用料・賃借料	全体会会場使用料	4						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	登録者数	133	125	125	150	200	登録者数
	活用数	66	42	83	90	100	サポーター活動数

問題点・課題 (指標分析)	サポーター制度についての周知が十分でない。 登録者の具体的な活動内容（技術のレベル等）が把握できない場合、コーディネートに支障がある。 分野によっては、単発の活動が主となるため継続性に欠ける。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 人材バンク、講師派遣制度等類似制度はあり
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
H Pでの周知のほか、福祉まつり等他部署（団体）が実施するのイベントにPRブースを開設し、制度や実際の活動を周知する等新たなPRを方法を検討し実施する。	26年度の実施状況を検証し、効果的にサポーター制度の周知を進めていく。
「活動見本市」や「体験講座」などを、コミュニティカレッジ学園祭で実施し、各サポーターの実際の活動を具体的に把握するとともに、団体へ周知し、派遣のコーディネートにつなげていく。	26年度の実施状況を検証し、具体的な活動内容を紹介する場を拡大していく。
継続のアンケート調査の際に活動状況等を確認し、サポーター制度をきっかけに継続的な活動となっているもの等を把握することで、事業の実施効果を把握する。	26年度の対応を踏まえ、成果の把握を継続する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	地域の人財を活用することで、青少年の健全育成や生涯教育の振興につなげることができている。

議会議案 (要旨)	H19 区民人材の活用方策について
--------------	-------------------



# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-20	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	宮前	内線		3352
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	--	01-01-01	清里高原ロッジ・少年自然の家管理運営費				
事務事業の種類	新規事業	（ 26年度 25年度 ）	建設事業	それ以外の継続事業			
開始年度	昭和 平成	58 年度	根拠	荒川区立清里高原ロッジ条例、荒川区立清里高原少年自然の家条例、両条例施行規則			
終期設定	有 無	年度	法令等				
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	[ ロッジ ] 区民が、豊かな自然環境の中で荒川区ではできない体験をしたり、交流を深めたりすることにより、心身の健康増進を図る。 [ 自然の家 ] 豊かな自然環境の中での集団生活を通じて、明日を担う少年の豊かな情操と自律、協同の精神を養い、創意と活力にあふれる人間形成を図る。						
対象者等	1 荒川区内の青少年団体その他の社会教育関係団体（文化・スポーツ・自然観察・野外活動） 2 区立小・中学校（移動教室・夏期学園等の教育活動） 3 区内在住者、区内在勤者及びその家族等（文化・スポーツ・自然観察・野外活動）						
内容	【開設】昭和58年4月15日【所在地】山梨県北杜市高根町清里3545 - 5 【定員】ロッジ35名、少年自然の家200名 【宿泊室】ロッジ 12畳5室、9畳(ﾊﾞｯﾄ)1室、研修室洋間55㎡（34畳）、談話室、食堂、浴室 少年自然の家 24.5畳10室、研修室24.5畳1室、リーダー室10畳2室・8畳2室、食堂、浴室、体育室 【土地面積】32,322㎡ 【構造】鉄筋コンクリート造2階建 【建物面積】延3,999.96㎡（ロッジ809.99㎡、自然の家3,189.97㎡）【面積比】ロッジ：自然の家＝2：8 【休業日】 1月1日から4月28日（当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直前の金曜日）まで。 11月5日（当該日が土曜日及び日曜日に当たる場合は、当該日の直後の月曜日）から12月31日まで。 （平成26年度の開設は、平成26年4月26日から平成26年11月3日まで）						
経過	昭和58～13年度 高根町に管理委託（10年間×2回） 平成14年度～ (株)ニッコトラストに業務委託 平成18～20年度 指定管理者(株)ニッコトラスト（公募） 平成21～23年度 指定管理者(株)ニッコトラスト（更新） 平成24～26年度 指定管理者ニッコトラスト・尾瀬林業プロジェクト（公募） *平成25年7月1日 ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクトに変更						
必要性	荒川区内では体験することが難しい自然とのふれあいや、小中学校の校外活動を行う場としての役割は大きい。						
実施方法	（ 3委託 ） （ 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 ） 指定管理者：ニッコトラスト・東京パワーテクノロジープロジェクト						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		50,731	77,816	75,546	64,335	60,358	56,982
決算額（26年度は見込み）		50,304	77,499	66,290	62,197	58,421	56,891	55,635
人件費等		2,541	2,199	2,616	2,964	3,717	3,743	
減価償却費				872	1,089	1,452	1,521	
【事務分担量】（%）		30	27	30	35	45	45	
合計（ + + ）		52,845	79,698	69,778	66,250	63,590	62,155	55,635
特定財源の推移	国	0	0	0	0	0		
	都	0	0	0	0	0		
	その他	0	16,000	11,975	10,000	7,000		
	一般財源	52,845	63,698	57,803	56,250	56,590	62,155	55,635
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	一般利用者（人）	2,260	2,044	2,065	1,857	1,813	1,467	2,000
	学校利用者（人）	7,704	7,674	8,471	7,664	8,462	8,318	8,500

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
職員旅費	管理運営指導等旅費	336	委託料	指定管理料	52,367	委託料	指定管理料	52,738
委託料	指定管理料	49,842	使用料等	土地賃借料	2,549	使用料等	土地賃借料	2,549
使用料等	土地賃借料	2,549	工事請負費	冷暖房機設置工事	1,788	備品購入費	プロジェクター等購入	193
工事請負費	高圧ケーブル改修工事	5,696	旅費	管理運営指導等旅費	187	旅費	管理運営指導等旅費	155

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	利用人数（人）	9,521	10,275	9,785	10,500	11,000	延べ利用者数
	宿泊部屋稼働率（％）	36.3	31	36	35	40	利用部屋数 / 稼働部屋数
	利用者1人当たりの維持管理コスト（円）	5,578	5,131	7,754.5	5,244	5,000	決算額 / 利用者数（算出決算額は工事等臨時経費を除いた額）

（問題点・課題分析）	<p>開設から31年が経過しており、施設、設備を含めた計画的修繕が必要である。 少年自然の家は学校の利用が中心となり、安定的な運営を図れるが、ロッジの利用率の向上が課題である。 重油・食材の高騰によって管理・運営経費が増大する等、物価の影響を受けやすい。</p>
	<p>（実施 6 区 未実施 16 区 不明 0 区） 社会教育施設のうち宿泊施設を有する区</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
不具合の生じている施設・設備については、計画的に修繕していく。	26年度の対応を踏まえて、計画的な修繕を行う。
区内の団体に出向いて利用をPRしたり、指定管理者の自主事業の内容を精査する等により利用の増加を図る。	26年度の対応を踏まえて、PR方法や事業内容の改善を図る。
利用状況に応じた節電対策の実施等、光熱水費等の経費削減に努める。	26年度の対応を踏まえて、経費削減に努める。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民の健康増進の場、児童生徒の体験活動の場を提供するため、必要である。

議会議事（要旨）	通年開設について
----------	----------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-21	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	町屋文化センター管理運営費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	坂野	内線	3351	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	町屋文化センター管理運営費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	63年度	根拠法令等	荒川区立町屋文化センター条例、同施行規則		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習、文化の欲求を満足させる機会をつくとともに、学習、文化活動の推進を図る。						
対象者等	荒川区内在住・在勤・在学者						
内容	<p>【開設】 昭和63年11月1日</p> <p>【所在地】 荒川区町屋7-20-1</p> <p>【土地面積】 4,137.28㎡（イーストヒル町屋）の一部</p> <p>【延床面積】 2,400㎡</p> <p>【構造】 鉄筋コンクリート造3階建</p> <p>【施設面積】 多目的ホール188.80㎡（椅子席154名収容）、音楽練習室60.78㎡、ふれあい広場480.41㎡</p> <p>第1会議室64.08㎡（36名収容）、第2会議室65.61㎡（33名収容）</p> <p>第3会議室68.57㎡（45名収容）、第4会議室 74.47㎡（45名収容）</p> <p>【利用時間】 午前9時～午後10時</p> <p>【主な事業】 カルチャー講座、自主事業（一日文化体験）等</p>						
経過	昭和63年11月 施設管理・運営業務を（財）荒川区地域振興公社（ACC）に委託 平成18～20年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者として管理運営（公募） 平成21～23年度 （財）荒川区地域振興公社が指定管理者（更新） 平成24～26年度 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団が指定管理者（特命） *東日本大震災の影響による電力不足対策として平成23年3月12日～5月15日の間、夜間利用を休止した。						
必要性	カルチャー講座や文化総合講座の実施、施設の貸出し等、区民の生涯学習のニーズに合った施設であるため必要性は高い。						
実施方法	（3委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 指定管理者：公益財団法人荒川区芸術文化振興財団						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		54,489	37,986	35,933	68,465	60,453	38,075
決算額（26年度は見込み）		52,104	36,695	35,933	38,235	50,448	38,075	38,601
人件費等		2,710	1,628	2,180	2,117	2,478	2,911	
減価償却費				726	778	968	1,183	
【事務分担当】（%）				25	25	30	35	
合計（+ +）		54,814	38,323	38,839	41,130	53,894	42,169	38,601
実績の推移	特定財源							
	一般財源							
		54,814	38,323	38,839	41,130	53,894	42,169	38,601
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	多目的ホール（利用件数）	1,143	1,161	1,125	1,052	1,073	1,098	1,140
	音楽練習室（利用件数）	1,139	1,160	1,187	1,109	1,188	1,114	1,140
	第1～4会議室（利用件数）	3,670	3,744	3,536	3,436	3,580	3,736	3,960
	ふれあい広場（利用件数）	340	376	326	326	339	336	400

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料	23,007	委託料	指定管理料	23,007	委託料	指定管理料	23,342
負担金補助・交付金	管理組合管理費・特別修繕費	12,504	負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068	負担金補助等	管理組合管理費・特別修繕費	15,068
工事請負費	1階トイレ改修	14,937				備品購入費	展示パネル購入	191

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
	施設稼働率（％）	68	69	70	75	80	利用件数/利用可能数
標	利用者数（人）	171,441	181,906	188,547	190,000	200,000	延利用者数
	カルチャー講座受講者数（人）	5,289	5,136	5,070	5,300	5,500	延受講者数

（問題点・課題分析）	開設から26年を超過し、施設の老朽化や設備・備品の劣化・不具合が生じているため、随時、改修や買い替えを行ってきた。今後も修繕等についての優先順位を精査し、計画的に行う必要がある。利便性も良く、稼働率も安定している施設であるが、より快適に利用できるよう、利用者の声を踏まえてサービスの向上を図る。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区） 文化センター、コミュニティセンター等の生涯学習施設

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
施設利用に支障のないよう、必要な修繕を計画的に実施する。	不具合が生じている施設・設備について、計画的に修繕していく。
カルチャー講座やなないろひろば等の自主事業に、利用者の意見を反映し、事業の充実を図る。	26年度の対応を踏まえ、アンケート等により利用者のニーズを把握し、更なる発展を促す。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民の学びの場を提供する生涯学習施設として運営するために必要である。

議会議事録 （要旨）	町屋文化センターの附帯設備について
---------------	-------------------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-22	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	生涯学習センター管理運営費	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村		
		担当者名	高橋	内線	3351		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）		01-01-01	生涯学習センター管理運営費				
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	9年度	根拠法令等	荒川区立生涯学習センター条例、同施行規則		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	多くの区民の学ぶ喜び、創る楽しさ、ふれあいの場づくりなど、様々な学習意欲に応える機会をつくるとともに、生涯学習に関する相談、情報収集・提供等を行い、生涯学習の推進を図る。						
対象者等	区民一般 各種講座などは、18歳以上の在住・在勤・在学者を対象とする。						
内容	<p>【開設】平成9年7月1日</p> <p>【所在地】荒川区荒川3-49-1(教育センターと併設)</p> <p>【土地面積】6,579.78㎡</p> <p>【延床面積】2,970.35㎡(4530.36㎡のうち)</p> <p>【構造】鉄筋コンクリート4階建(うち1・3・4階部分)</p> <p>【施設内容】小会議室4室(64㎡、30人程度)、大会議室(128㎡、80人程度)、音楽室(128㎡、40人程度)、多目的室(128㎡、60人程度)、学習室(64㎡、30人)、情報提供コーナー(64㎡)、体育館(700㎡)、多目的広場(3,486㎡)</p> <p>【利用時間】午前9時～午後10時</p> <p>【主な事業】区民カレッジ、専修学校の公開講座、IT講習会等</p>						
経過	<p>平成9～15年度 直営（一部業務委託）</p> <p>平成16～17年度 施設運営等業務を(株)読売・日本テレビ文化センターに委託</p> <p>平成18～23年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募、更新1回）</p> <p>平成24～26年度 指定管理者：(株)読売・日本テレビ文化センター（公募）</p> <p>*東日本大震災の影響による電力不足対策として、平成23年3月12日～5月15日の間、全館夜間利用の休止（全館）、体育館等は9月10日まで夜間利用の一部休止を行った。</p>						
必要性	「区民カレッジ」について定員を超える応募があり、区民の生涯学習に対する意欲が感じられる。生涯学習推進計画に基づき、生涯学習センターの各事業を充実し、生涯学習の一層の普及・啓発を行っていく必要性は高い。						
実施方法	(3委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						
	指定管理者：株式会社読売・日本テレビ文化センター						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移								
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	80,974	83,010	88,896	76,008	68,103	67,738	67,251	
決算額（26年度は見込み）	79,784	74,414	81,613	70,890	65,642	66,602	67,251	
人件費等	3,754	3,868	4,465	4,765	5,079	4,842		
減価償却費			2,179	2,488	2,743	2,805		
【事務分担量】（%）	55	65	75	80	85	83		
合計（+ +）	83,538	78,282	88,257	78,143	73,464	74,249	67,251	
特定財源	国	0	0	0	0	0	0	
	都	0	0	0	0	0	0	
	その他	10,090	15,204	20,204	5,225	243	240	423
	一般財源	73,448	63,078	68,053	72,918	73,221	74,009	66,828
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	施設利用件数（多目的広場、PC室を除く）	6,676	6,962	6,967	6,845	7,073	7,278	7,300
	区民カレッジ（講演・講座数、回数）	11、47	10、51	11、50	9、57	13、67	12、57	10、54
	IT講習会（講座数）	54	54	51	41	51	50	51
	IT自習室利用数（人）	929	750	1073	978	1609	1103	1150



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
委託料	指定管理料	53,585	委託料	指定管理料	54,478	委託料	指定管理料	55,514
使用料等	公有地賃借料	11,550	使用料等	公有地賃借料	11,550	使用料等	公有地賃借料	11,597
備品購入費	物置等	389	備品購入費	会議用テーブル等	526	備品購入費	ワイヤレスアンブ	92
役務費	物置設置	70	報償費	近隣協力員謝礼	48	報償費	近隣協力員謝礼	48
報償費	近隣協力員謝礼	48						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	施設稼働率(%)	62	62	64	62	65	利用件数 / 利用可能数 (多目的広場、PC室を除く)
	利用者数(人)	139,236	169,333	161,052	170,000	170,000	延べ利用者数 (多目的広場、PC室を除く)
	区民カレッジ受講者数(人)	3,061	3,548	3,580	3,600	3,600	延べ受講者数

（問題点・課題分析）	施設稼働率の向上のために、区民ニーズの把握に努め、よりよい接遇やサービスについて検討する必要がある。 区民カレッジ等の無断欠席や中途不参加者の減少を防止するために、募集方法の工夫や適正な受益者負担について、検討する必要がある。 IT講習会・IT自習室については、レベルや講座内容等について、より区民ニーズを反映させることが必要である。
	（実施 21 区 未実施 1 区 不明 0 区） 生涯学習センター、社会教育館、青少年センター等の生涯学習施設
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
利用者アンケートを行ったり、施設内に常時意見箱を置くことで、利用者のニーズを細かく把握する。	利用者アンケート結果等を区民サービスの改善や施設の管理運営に反映する。
申込方法や受益者負担について検討し、受講者が学習を継続する意欲を高める。	26年度の検討を踏まえ、講座の運営方法を改善する。
利用者アンケート結果等を踏まえ、多様な分野の講座を幅広く企画する。	受講者の多様なニーズに応える講座を企画する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	生涯学習の場を提供する生涯学習施設として運営するため必要である。

況議 （要 質 問 状 ）	・子ども達の外遊びの場としての多目的広場の活用について ・多目的広場の利用対象の拡大について
------------------------------	---

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-23	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川コミュニティカレッジ		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	
			担当者名	内田	内線	1829	
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-14-01	荒川コミュニティカレッジ管理運営費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	22年度	根拠	荒川コミュニティカレッジ実施要綱、荒川区生涯学習推進計画		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	子育て教育都市					
	政策	04	心豊かにたくましく生きる子どもの育成と生涯学習社会の形成				
	施策	04-12	生涯学習活動の支援				
目的	区民が地域への関心を深めるとともに、地域活動の担い手となるために学ぶ機会を提供することにより、区民が主体的に地域活動に取り組めるよう支援する。						
対象者等	荒川区在住・在学・在勤の18歳以上の方						
内容	<p>【会場】サンパール荒川6階コミュニティカレッジ研修室ほか 【履修期間】2年間</p> <p>(1) 必修科目 1年次は、地域活動に必要な知識やコミュニケーション力等を習得する。2年次は、体験学習の実施、グループワークでの研究、学習成果の発表等により、修了後の主体的な地域活動につなげる。 &lt;昼コース(募集人員)&gt; 1年次 あらかわ学コース(30名) 2年次 まちづくり学科 &lt;夜コース(募集人員)&gt; 1年次 クリエイティブコース(30名) 2年次 クリエイティブ学科</p> <p>(2) 選択科目 ・公開講座 区民一般を対象とした地域活動に関する教養講座等 ・連携講座 区が実施する人材養成講座等を単位として認定 ・選択講座 コミュニティカレッジが実施する地域活動に役立つ養成講座</p> <p>(3) その他 入学式、修了式、学園祭や修了生の活動支援を行う。</p>						
経過	<p>平成19年度 荒川区生涯学習推進計画策定(平成20年3月) 重点目標の新たな取り組みとして提示</p> <p>平成20年度 (仮称)あらかわ地域大学構想懇談会の設置(12月~21年3月)</p> <p>平成21年度 (仮称)あらかわ地域大学構想策定(3月)</p> <p>平成22年度 名称「荒川コミュニティカレッジ」の決定(5月) コミュニティカレッジ開校・1期生入学(10月)</p> <p>平成23年度 2期生入学・1期生2年次開講(10月)</p> <p>平成24年度 1期生修了(9月)・3期生入学(10月)</p> <p>平成25年度 2期生修了(9月)・4期生入学(10月)</p>						
必要性	区と区民とが協働し、「幸福実感都市」を実現するための基盤づくりとして、地域社会を担う人材を育成するために必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		4,265	503	35,745	12,945	13,253	13,057
決算額(26年度は見込み)		3,404	123	27,680	7,560	8,045	8,210	12,664
人件費等		2,118	4,724	23,022	23,604	26,532	24,973	
減価償却費				11,620	17,105	19,039	17,137	
【事務分担量】(%)		25	65	400	550	590	507	
合計(+ +)		5,522	4,847	62,322	48,269	53,616	50,320	12,664
特定財源	国							
	都							
一般財源	その他			480	1,050	993		
	一般財源	5,522	4,847	61,842	47,219	52,623	50,320	12,664
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	入学生数(人)	-	-	85	41	55	54	60
	修了生数(人)	-	-	-	-	63	29	46
	修了後の活動割合(%)	-	-	-	-	90	90	90

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	講師謝礼等	2,257	報償費	講師謝礼等	2,878	報償費	講師謝礼等	3,880
負担金補助等	サンパール負担金	2,068	負担金補助等	サンパール負担金	2,174	負担金補助等	サンパール負担金	3,770
需用費	消耗品、印刷製本	1,560	委託料	清掃委託、光熱水費	1,301	需用費	消耗品、印刷製本	2,367
委託料	清掃委託、光熱水費	1,358	需用費	消耗品、印刷製本	939	役務費	電話料等	765
役務費	電話料等	495	賃金	臨時職員賃金	546	委託料	区報特集号作成	580
使用料等	会場使用料等	184	使用料等	会場使用料等	205	賃金	臨時職員賃金	576
備品購入費	備品購入	125	役務費	電話料等	133	使用料等	会場使用料等	576

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	修了生数（合計）		63	92	138	180	修了生の延べ人数
	修了後の活動割合（％）		90	90	95	95	活動に取り組む修了生 / 全修了生
	新たに立ち上げた地域活動団体数		7	2	5	5	

（問題点・課題分析）	コミュニティカレッジの目的や役割を広く周知し、継続的に受講生を確保する必要がある。 修了生が学びを活かし地域で活動できる支援体制が必要がある。 受講生の知識、能力、経験、希望等を考慮したカリキュラムの編成及び支援の必要がある。
	（実施 4 区 未実施 18 区 不明 0 区） 人材育成のための長期間の講座を実施している区。それぞれの区で目的や実施方法等が異なっており、全く同じ事業はない。

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	コミュニティカレッジの目的や役割をより多くの区民に知ってもらうため、地域のイベントでのブース出展や、修了生の活動PR等を行い、コミュニティカレッジの周知につなげる。	平成26年度の取組内容の効果を検証し、在校生・修了生の主体的な地域活動を積極的に支援し、アピールしていく。
	関係課や関係団体等が実施する、環境や健康・福祉等の地域活動に関する人材育成講座と連携するなど、充実した地域活動につなげるための連携を深める。	さらに関係課や関係団体等とのネットワークを拡大し、活動に関する情報提供等を行う。
	受講生が主体的に地域活動に取り組めるようにするため、受講生の知識、能力、経験、希望等を考慮したカリキュラムの編成及び支援する。	引き続き、カリキュラムの内容等の見直しや修了後の支援を行う。また、受講生がより主体的に地域活動へ取り組むための支援を行う。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	区民が学びの成果を活かして主体的な地域活動に参加できるように学習する場として必要である。

議 会 要 質 問 状 況	H25決特	現状と今後の展望について
	H25予特	受講生・修了生の活動の場について
	H24一定	町会との連携について
	H24予特	修了生の状況について
	H23決特	1年間実施しての成果（評価）について

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-24	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川ふるさと文化館管理運営費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	坂牧	内線		1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-01-01	荒川ふるさと文化館管理費					
	01-02-01	荒川ふるさと文化館一般運営費					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	10年度	根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	常設展示や企画展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連等の事業、情報提供等を行うための施設維持管理と管理運営を行い、区民の生涯学習の振興並びに荒川区における教育、学術及び文化の発展に寄与する。						
対象者等	区民全般・荒川ふるさと文化館利用者等（共有区分 南千住図書館利用者）						
内容	【主な所轄事業】 荒川区に係る考古、歴史、民俗等資料の収集及び保存 常設展示及び特別展示事業（企画展等） 資料に係る専門的な調査研究 文化財の保存及び活用 郷土学習のレファレンス（資料紹介や学習アドバイス、団体見学対応等） 教育、学術及び文化の振興に関する事業（各種講座） 伝統技術の保護と育成（荒川学校職人教室・伝統技術展、荒川区伝統工芸技術継承者育成事業等）						
経過	【所在地】 荒川区南千住6-63-1（南千住図書館と併設）【土地面積】 2,723.96㎡ 【建物面積】 1,499.89㎡【延床面積】 5,720.69㎡（文化館2,584.59㎡、図書館2,686.1㎡） 【構造】 鉄筋コンクリート地上4階、地下1階 【施設内容】 地下1階：収蔵庫（261㎡）、視聴覚室（84㎡・45人）、研修室（53㎡・30人）、工作室（59㎡） 1階：常設展示室（506㎡）、企画展示室（148㎡）、郷土学習室（84㎡） 2階：調査研究室（40㎡） 4階：事務室（282㎡、図書館共用部分含む）【工期】 建物：平成7年10月19日～10年3月31日、常設展示：平成8年10月1日～10年3月31日 【休館日】 月曜日（月曜が祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館）、館内整理日、年末年始（12月29日～1月4日）【入館料】 100円（区内在住の障がい者とその介護者・65歳以上・中学生以下は無料） 【開設】 平成10年5月1日（開館時より南千住図書館と一括で施設管理委託） 建物建設3,113,381,000円 展示製作委託319,300,000円 外構（駐車場・駐輪場等）167,023,500円						
必要性	荒川の歴史や文化に関心を持ち、より深く理解してもらい、郷土愛を育むための施設運営を行う必要性は高い。また近年は観光スポットとしても注目され、平成26年度開催の奥の細道サミットの関連事業の拠点の一つにもなっている。						
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 清掃、警備、受付、エレベーター・電気工作物保守等は委託						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		56,650	53,476	50,538	49,488	52,712	57,659
決算額（26年度は見込み）		54,452	50,197	48,301	47,001	51,892	56,489	52,828
人件費等		6,776	8,144	6,104	7,757	6,444	1,953	
減価償却費				2,034	2,177	2,517	1,014	
【事務分担量】（%）		80	100	70	70	78	30	
合計（+ +）		61,228	58,341	56,439	56,935	60,853	59,456	52,828
特定財源	国							
	都							
	その他		736	783	670	741	642	
一般財源		60,492	57,558	55,769	56,194	60,211	59,456	52,828
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	文化館利用者数（人）	19,223	23,863	19,053	23,702	18,709	19,164	24,000
	展示室観覧者数（人）	15,442	19,715	14,754	18,589	14,446	14,641	20,000

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬	非常勤職員報酬	14,875	委託料	建物維持管理業務委託等	21,895	委託料	建物維持管理業務委託等	21,141
共済費	非常勤社会保険料	2,002	報酬	学芸員報酬	14,515	報酬	学芸員報酬	15,779
報償費	保守謝礼（太刀）	0	需用費	光熱水費、消耗品購入費等	10,402	需用費	光熱水費、消耗品購入費等	12,152
旅費	資料調査旅費	69	工事請負費	電気錠設備改修工事	5,345	共済費	学芸員社会保険料	2,038
光熱水費	電気・水道料金	8,256	共済費	学芸員社会保険料	2,048	役務費	電話料金、郵便切手等	1,147
一般需用費	家屋修繕費・展示室電球	3,292	役務費	電話料金、郵便切手等	1,307	備品購入費	備品購入費	290
	印刷製本・消耗品等	935	旅費	郷土資料調査旅費等	684	賃借料	複写機、軽印刷機賃借料等	150

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	文化館利用者数(人)	23,702	18,709	19,164	24,000	26,000	展示室観覧者 + 郷土学習室利用者
	文化館展示室観覧者数(人)	18,589	14,446	14,641	20,000	22,000	展示室観覧者数

（問題点・課題 分析）	開設後16年以上が経過し、展示室及び収蔵庫等の空調、自動ドアの不具合等、経年劣化により修繕が必要な箇所が増加している。 平成26年度の奥の細道サミット関連事業において、関係自治体の協力を得て企画展示の充実を図り、来館者の増加につなげる。荒川ふるさと文化館の来館者の増加を図るための、HPのコンテンツの充実等、PR方法の改善を検討する。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実 状況	

問題点・課題の改善策		
	平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
	経年劣化の進行等、修繕が必要な箇所を把握し、計画的な修繕を行っていく。	26年度の対応を踏まえ、継続して計画的に修繕していく。
	利用者が必要とする情報をタイムリーに発信できるようHPのコンテンツの充実を図る。また、その他のメディアへの情報発信を積極的に行う。	26年度の対応を踏まえ、継続してPR方法の改善を行っていく。
	複合施設開館に伴う中央図書館機能移転に備えて、共有部分の利用・運営方法について南千住図書館と検討する。	26年度に検討した結果を踏まえ、具体的化のための計画を策定する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	郷土の歴史や文化に親しみ、荒川の文化を伝承する施設を運営するために必要である。

議 会 質 問 状 況 （ 要 旨 ）	
--	--



# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-25	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	荒川ふるさと文化館事業推進費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	鍛冶	内線		1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）							
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業		それ以外の継続事業		
開始年度	昭和 平成	10 年度	根拠法令等	荒川区立荒川ふるさと文化館条例			
終期設定	有 無	年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	区民が、荒川ふるさと文化館の企画展を観覧したり、講座等の事業に参加したりすることにより、文化財保護への理解と郷土愛を深めるようにする。						
対象者等	区民全般、荒川ふるさと文化館来館者						
内容	<p>荒川ふるさと文化館の常設展示を補完するとともに、文化財普及・啓発のために下記の事業を行う。</p> <p>企画展：年2回程度開催。会期1～2か月間。企画展示室においてテーマに基づいた展示を行う。入館料は、常設展示と合わせて100円。平成25年度は、企画展「東京『氷』物語」「番付から見るあらかわ」を実施。</p> <p>館蔵資料展：年1～2回開催。会期1～2か月間。館が所蔵している文化財、新たに購入した文化財等、テーマを設定し、展示を行う。</p> <p>子ども向け講座：夏休み期間に「リトル学芸員」「あらかわ職人道場」等の体験学習を実施。</p> <p>一般向け講座：「古文書講座（初級・中級）」「金石講座」「地域史講座」「史跡めぐり」等、講師は荒川ふるさと文化館学芸員。「文化財講座」、テーマを設定し様々な角度から荒川を探る講座、外部講師を招き実施する。</p> <p>庁舎エントランス展示：平成20年度より荒川ブランドの伝統工芸品を展示。年4回展示替え。</p>						
経過	<p>1 平成23年度事業：企画展2回「都電荒川線に乗って」「絵解き あらかわの浮世絵」・館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の展示・夏休み子ども博物館・七夕まつり・文化財講座・古文書講座・金石講座・地域史講座・史跡めぐり</p> <p>2 平成24年度事業：企画展2回「再発見！あらかわの匠の仕事 - 伝統工芸品展 - 」「山車人形が街をゆく」・館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の展示・夏休み子ども博物館・七夕まつり・文化財講座・古文書講座・地域史講座・史跡めぐり</p> <p>3 平成25年度事業：企画展2回「東京『氷』物語」「番付から見るあらかわ」・パネル展「俳句を探（たず）ねる小さな旅 - 芭蕉・梅翁・一茶 - 」・館蔵資料展「速報！あらかわの文化財展」等の展示・夏休み子ども博物館・七夕まつり・古文書講座・史跡めぐり・文化財講座</p>						
必要性	収集した資料・情報を活用し、区民に郷土の歴史・文化に親しみ理解を深める機会を提供しており、また区の歴史・文化を資源として活用し区のPRに役立てており、必要性は高い。講座はコミュニケーション連携講座にも位置づけられ、区民自らが郷土の歴史を探求する手法を学ぶ場となっている						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		7,405	7,094	8,438	7,408	7,021	6,885
決算額（26年度は見込み）		6,047	5,227	6,915	5,795	5,616	5,766	7,301
人件費等		9,892	8,756	13,991	15,491	15,067	12,693	
減価償却費				7,844	9,486	9,681	9,126	
【事務分担量】（%）		220	195	270	305	300	270	
合計（ + + ）		15,939	13,983	28,750	30,772	30,364	27,585	7,301
特定財源	国							
	都							
	その他	621	743	452	789	503	978	447
一般財源		15,318	13,240	28,298	29,983	29,861	26,607	6,854
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	企画展	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催
	館蔵資料展	2回開催	2回開催	2回開催	1回開催	1回開催	1回開催	1回開催



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	企画展講演会謝礼等	394	委託料	展示制作等委託料	2,422	需用費	企画展図録ポスター等	2,229
一般需用費	企画展図録ポスター等	2,180	需用費	企画展図録ポスター等	2,240	役務費	企画展美術梱包輸送	2,069
役務費	企画展美術梱包輸送	397	役務費	企画展美術梱包輸送	721	委託料	展示制作等委託料	1,994
委託料	展示制作等委託料	2,181	報償費	企画展講演会謝礼等	363	旅費	展示資料調査	463
使用料・賃借料	展示品賃借・使用料	147	賃借料	展示品賃借・使用料	20	報償費	企画展講演会謝礼等	396
						賃借料	展示品賃借・使用料	150

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	企画展入館者数(人)	7,842	5,027	4,927	5,500	6,000	企画展（年2回）の入館者数
	各種事業延参加者数(人)	600	530	418	700	800	講座・講演会など延参加者数

（問題点・課題分析）	企画展については、テーマや内容により入場者数が大きく変動するため、区民のニーズを踏まえたテーマの設定や、質の高い展示を行い、リピーターを増やしていく必要がある。 各種事業参加者が減少傾向にあるため、原因の把握と増加策の検討が必要である。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
今後の企画展のテーマの検討にあたり、区民にとって魅力ある展示となるよう、来館者アンケート結果等を反映するとともに、より質の高い展示を行う。	26年度の対応を踏まえて、継続して展示の改善を図っていく。
事業参加者アンケート等を分析し、参加者減の原因を把握するとともに、PR方法等の見直しを行う。	26年度の対応を踏まえて、参加者の増加のための対応策を実施する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	郷土の歴史や、文化に親しむ講座・展示等を提供する事業として、必要である。

議会議事録 （要旨）	荒川区にゆかりのある小松崎茂に関する展示について
---------------	--------------------------

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-26	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	奥の細道矢立初めの地 子ども俳句相撲大会	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村	担当者名	井口
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	--					内線	1782
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）	建設事業	それ以外の継続事業				
開始年度	昭和 平成	19年度	根拠法令等	無し			
終期設定	有 無	年度					
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	区内の小学生が、「俳句」という日本伝統の文化を学び、国語能力向上につなげるようにする。また、南千住が松尾芭蕉の「奥の細道」旅立ちの地であることから、むすびの地である大垣市と、俳句の事業を通じて、住民同士の交流を深めることを目指す。						
対象者等	区内の小学生						
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 夏休み子ども博物館俳句教室（夏休み 荒川ふるさと文化館）</li> <li>2 大垣市「芭蕉蛤塚忌全国俳句大会」（10月 大垣市）</li> <li>3 文化祭・俳句展示会ジュニア部門募集（展示11月 町屋文化センター）</li> <li>4 大垣市「全国東西俳句相撲」（11月 大垣市） 前年度子ども俳句相撲大会上位者を派遣（小学生2人×2組）。</li> <li>5 荒川区子ども俳句相撲大会・予選（1月 区内）</li> <li>6 荒川区子ども俳句相撲大会千秋楽【本選】（3月 南千住） 予選通過選手及び大垣市からの招待選手によるトーナメント。</li> <li>7 荒川区俳句連盟による俳句指導（通年 区内小学校） 生涯学習課が連盟と調整し希望する学校に講師を派遣</li> <li>8 著名な俳人による 指導者向け講習会</li> </ol>						
経過	<p>平成19年度：第1回奥の細道矢立初めの地「子ども俳句相撲大会」を、荒川ふるさと文化館企画展「千住大橋鉄橋化80周年」の関連事業として実施。以降年1回3月に実施</p> <p>平成22年度は東日本大震災の影響で大会を中止、23年度は事業中止</p> <p>○平成25年度第1回全国東西俳句相撲（大垣市）に区内の小学生2組4名を派遣、横綱（優勝）・関脇（殊勲賞）を受賞</p> <p>○平成25年度奥の細道矢立初めの地「子ども俳句相撲大会」 日時：平成26年3月8日（土）会場：素盞雄神社 大垣市から小学生3組6名を招待。</p>						
必要性	子どもたちが俳句文化に触れるとともに、南千住が奥の細道矢立初めの地であることを学び、郷土愛を育む事業として必要性が高い。また、俳句を通じて奥の細道の結びの地である大垣市との交流を深めることができる。						
実施方法	（1直営）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予算額		1,213	1,295	1,227	1,171	684	835
決算額（26年度は見込み）		999	916	371	0	476	649	854
人件費等		3,696	4,683	4,761	0	2,492	4,665	
減価償却費				2,179	0	1,646	3,549	
【事務分担量】（%）		75	75	75	0	51	105	
合計（+ +）		4,695	5,599	7,311	0	4,614	8,863	854
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源		4,695	5,599	7,311	0	4,614	8,863	854
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	予選参加チーム数	56組	59組	90組	-	227組	245組	280組
	（予選参加者数）	（112名）	（118名）	（180名）	-	（254名）	（490名）	（560名）

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	大会選者謝礼	70	委託料	会場設営委託	375	需用費	消耗品費、印刷製本費等	355
旅費	大会・教室引率派遣旅費	71	報償費	大会選者謝礼	72	委託料	会場設営委託	206
一般需用費	印刷製本（ポスター等）	68	旅費	大会・教室引率派遣旅費	71	報償費	大会選者謝礼	107
役務費	賞状筆耕料	19	需用費	消耗品費等	70	旅費	大会・教室引率派遣旅費	89
委託料	会場設営委託	200	負担金補助等	大会派遣参加費	49	負担金補助等	大会派遣参加費	70
使用料	会場使用料	0	役務費	賞状筆耕料	12	役務費	賞状筆耕料	27
負担金・交付金	大会派遣参加費	49						

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	子ども俳句相撲大会予選参加者数 (組)	-	227	245	280	300	2人一組で応募する

（問題点・課題分析）	俳句という伝統文化を学ぶことができ、また、国語能力の向上につながる。小学校全校が参加する事業として実施していくことが望ましい。
	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
教育委員会と連携して大会の周知を図り、全小学校の参加及び保護者の参観を促す。	26年度の対応を踏まえ、参加校の増加を図る。
文化交流推進課、観光振興課と連携を図る。	26年度の取り組みを継続する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	推進	俳句という伝統文化を通じて、子どもたちの国語能力の向上を図るとともに、奥の細道旅立ちの地を区内外に発信する。

議会議案（要旨）	
----------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-27	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化財保護奨励費		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	鍛冶	内線		1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-03-01	文化財保護審議会					
	01-03-02	文化財保護奨励					
	01-03-04	映像記録保存					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業		それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	47年度	根拠	荒川区文化財保護条例 文化財保護法		
終期設定	有	無	年度	法令等			
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	区民に伝えられる有形・無形の文化財を区民全体の財産として、その保存・活用のための必要な措置を講じ、区民の文化的向上に資するとともに、郷土文化の振興と発展に貢献する。						
対象者等	区民一般、文化財所有者・保持者・団体、文化財保護審議会委員、文化財保護推進員、土地・建築関係業者						
内容	<p>文化財保護審議会 教育委員会の諮問を受け答申する。平成25年度区登録(4件)・区指定(2件)</p> <p>文化財保護推進員 文化財の保護と啓発活動をする非常勤職員 区民15名で構成 ・隔月推進員会の開催 ・区内文化財等の調査活動 ・文化財事業等の協力</p> <p>史跡説明板 設置：年1基 修理：臨時(予算の範囲内) (平成26年3月末現在 131基)</p> <p>年中行事・民俗芸能映像記録保存 平成20年度刷毛職人関根起吉氏の生活誌(編集作品) 平成21年~24年度 お諏方さまのまつり 25年度は撮影対象者体調不良のため休止</p> <p>埋蔵文化財の調査「文化財保護法」により、区内周知の包蔵地における土木工事等の届出に関する事務処理(都へ進達他)、確認調査立会い、本格調査の実施に関する調整事務を行う</p> <p>文化財保護奨励金等の交付 文化財の保護奨励等のため、区登録・指定文化財の所有者、保持者及び団体に予算の範囲内で奨励金を交付。また区指定文化財の修理に対して補助金を予算の範囲内で交付。</p>						
経過	<p>・昭和47年度：史跡説明板設置開始 ・昭和57年度：文化財保護条例制定 ・昭和57年度：文化財保護審議会設置 ・昭和58年度：文化財保護推進員設置 ・昭和62年度：日暮里延命院貝塚A地点発掘 ・平成10年度：荒川ふるさと文化館開館 ・平成17年度：町屋四丁目実揚遺跡A発掘調査 ・平成19年度：旧三河島汚水処分場唧筒場国重文指定 ・平成19年度：旧三河島汚水処分場唧筒場国重文指定 ・平成21年度：旧千住製絨所煉瓦塀が日本紙通商株式会社より区に寄贈 ・平成21年度：旧千住製絨所煉瓦塀構造補強工事 ・平成21年度：橋本佐内墓旧套堂復元工事 ・平成22年度：旧千住製絨所煉瓦塀環境整備工事・説明板設置 ・平成23年度：小塚原首切地蔵復元工事(第1・2期) ・平成24年度：小塚原首切地蔵復元工事(第2期)、養福寺二天像修復工事(第1期) ・平成25年度：養福寺二天像修復工事(第2期)</p>						
必要性	荒川区の歴史・文化を知るうえで貴重な有形・無形の文化財を保護し、区の伝統・文化を次代に伝えるため、また区の文化資源として活用するため、必要である。						
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 文化財保護審議会(文化財登録・指定の場合) 教育委員会事務局内部調査 文化財保護審議会に諮問 審議・部会調査 答申 教育委員会決定 告示						

(単位：千円)

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	13,089	13,415	24,095	11,465	14,416	11,670	11,874	
決算額(26年度は見込み)	11,862	9,965	19,226	7,378	11,767	9,034	11,874	
人件費等	8,141	10,142	9,715	13,087	10,278	8,335		
減価償却費			6,101	8,708	7,680	6,253		
【事務分担量】(%)	210	240	210	280	238	185		
合計(+ +)	20,003	20,107	35,042	29,173	29,725	23,622	11,874	
特定財源								
国	2,000	1,050	1,600	1,250	2,000	2,000	2,000	
都	1,000	1,659	9,093	625	1,000	1,000	1,000	
その他	78	46	47	49	71	49	37	
一般財源	16,925	17,352	24,302	27,249	26,654	20,573	8,837	
実績の推移	事項名							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
文化財保護推進員会	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	
文化財保護審議会・部会	8回開催	8回開催	8回開催	8回開催	8回開催	8回開催	8回開催	
指定・登録文化財件数	9件	6件	6件	6件	4件	6件	4件	
埋蔵文化財調査支援委託	10(1)件	14件	9件	7件	8件	10件	10件	

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
負担金補助等	文化財保護奨励金・補助金	6,229	負担金補助等	文化財保護奨励金・補助金	3,733	委託料	埋文調査・説明板設置等	4,641
委託料	埋文調査・説明板設置等	3,109	委託料	埋文調査・説明板設置等	2,909	負担金補助等	文化財保護奨励金・補助金	3,899
報酬	審議会委員・推進員報酬	1,786	報酬	審議会委員・推進員報酬	2,050	報酬	審議会委員・推進員報酬	2,370
需用費	消耗品・物品修繕等	356	使用料等	煉瓦塀敷地借地料	166	需用費	消耗品・物品修繕等	632
使用料等	煉瓦塀敷地借地料	166	需用費	消耗品・物品修繕等	146	使用料等	煉瓦塀敷地借地料	172
役務費	車両・登録書筆耕	76	旅費	審議会委員旅費等	24	役務費	車両・登録書筆耕	83
報償費等	報償費・旅費	45	役務費	文化財登録書筆耕	6	旅費	旅費	51

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	文化財登録件数（総数）	4(255)	2(257)	4(258)	2(260)	3(262)	総数 = 前年度総数+当該年度登録数-当該年度解除数
	文化財指定件数（総数）	2(54)	2(56)	2(57)	2(59)	2(61)	総数 = 前年度総数+当該年度指定数-当該年度解除数

（問題点・課題分析）	登録文化財の候補は、寺社調査・区史編纂調査・石造物調査等で収集した情報から選定しており、建造物や近代遺産等の登録件数は少ないため、調査計画を作る必要がある。 伝統工芸の保持者について把握するための工夫を行い、登録して保存する必要がある。
	（実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区）
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
これまでに収集してきた情報のほか、東京都の建造物の調査等を活用し、総合的に区内建造物を把握し、適切な保存方法を検討する。	検討に基づき計画的に文化財として登録する。
区報や公式ホームページで呼びかけ伝統工芸技術の保持者の所在を把握するとともに調査を行い、登録数を増加させる。	平成26年度に引き続き実施する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	区の有形・無形文化財を次代に伝えるとともに、区の文化資源として活用するため、必要性が高い。

議会（要旨）	H22決特 史跡説明板への浮世絵写真の掲載について H24決特 富士見坂の景観の文化財としての価値について
--------	--



# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-28	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	文化財交流事業	部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名	北村		
		担当者名	鍛冶	内線	1782		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）							
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）		建設事業	それ以外の継続事業			
開始年度	昭和	平成	17年度	根拠法令等	荒川区文化財保護条例 文化財保護法		
終期設定	有 無		年度				
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	荒川区や交流都市の文化財を通して、区民と交流都市との文化交流を深めることができるようにする。						
対象者等	区民一般、区外からの来訪者						
内容	<p>荒川ふるさと文化館エントランス等において、荒川区と交流都市の文化財等をパネルを中心として紹介する。区内の史跡・文化財の中には、他の自治体に関係する文化財が数多くある。橋本左内の墓旧套堂、松尾芭蕉の句碑、大関・石川・宗・佐竹等大名屋敷跡は、福井・大垣・黒羽・対馬・秋田などと荒川区の歴史の関連を伝えるものである。これら文化財を通じてゆかりの自治体を紹介する。</p> <p>25年度は奥の細道千住あらかわサミットのプレイベントに関連し、特に奥の細道のルート上の交流都市について、パネル・観光パンフレットにより広く紹介した。サミット開催年度である26年度には、さらにパンフレット等の情報量を増やし、広く周知する。</p>						
経過	<p>平成17年12月に橋本佐内墓套堂の寄贈を受けた。平成19年度：文化館敷地内への移設を決定し、復元工事設計を実施。「橋本左内墓旧套堂」を文化財登録。平成20年度：套堂復元工事完成、記念セミナーの実施（21年3月26日）。平成21年度：福井県から橋本左内像の贈呈及び旧套堂内への橋本左内ブロンズ像設置セミナーの実施（22年3月23日）。平成22年度：三河島の山車人形と交流都市である潮来市の山車人形のパネル展を実施（22年3月19日～6月5日）。平成23年度：隅田川から見える富士山と筑波山を詠み込んだ区指定有形文化財亀田鵬斎の詩碑や諏訪台からの筑波山眺望の変遷、校歌に筑波山を含む小中学校、つくば市の概要をパネルで紹介（24年3月31日～5月27日）。平成24年度：文化財交流事業を拡大し、企画展として他自治体等の山車人形を展示紹介した。平成25年度：奥の細道サミットプレイベントとしてのパネル展「俳句を探（たず）ねる小さな旅 - 芭蕉・梅翁・一茶 - 」開催にあわせ、区内及び交流都市の芭蕉等の史跡を紹介。通年、奥の細道のルート上の交流都市のパンフレットも配置し、来館者にサミット開催をPRした。</p>						
必要性	橋本左内の墓旧套堂、松尾芭蕉の句碑、大関・石川・宗・佐竹等大名屋敷等は、文化財的な価値及び観光資源としての価値が高く、これらを題材に区民・観光客に荒川区の文化財をPRし、また交流都市について周知する必要性は高い。						
実施方法	( 1直営 ) ( 直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員 )						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
		予算額	30,747	600	456	456	0	0
決算額（26年度は見込み）	30,747	390	335	0	0	0	0	
人件費等	3,338	2,689	2,738	1,543	1,209	705		
減価償却費			1,307	778	581	507		
【事務分担量】（%）	75	40	45	25	18	15		
合計（ + + ）	34,085	3,079	4,380	2,321	1,790	1,212	0	
特定財源	国							
	都							
その他								
一般財源	34,085	3,079	4,380	2,321	1,790	1,212	0	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	観覧者数	-	-	3,187	2,928	0	2,797	5,000



予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
一般需用費	パネル展パンフレット	0	需用費		0	需用費		0
役務費								
委託料	展示設営等委託	0	委託料		0	委託料		0
使用料及び賃借料								

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度 見込み	目標値 (27年度)	
標	パネル展観覧者数（人）	2,928	0	2,797	5,000	6,000	展示中の展示室観覧者 + 郷土学習室利用者数

（問題点・課題分析）	26年度は奥の細道千住あらかわサミットが開催されるため、都市間交流と荒川区のPRを行いつつ、サミット開催について周知し、サミットへの関心をさらに高める必要がある。
他区の実況	（実施 0 区 未実施 22 区 不明 0 区） 定期的な事業として実施している区は無い。

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
エントランス展示及び企画展示室でのパネル展により、区内外の松尾芭蕉や奥の細道にちなんだ文化財とサミット参加自治体の町の魅力について紹介しながら、3月のサミット開催について周知する。	平成26年度奥の細道千住あらかわサミットを契機に、俳句文化の伝承も視野に入れたテーマを検討する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
継続	継続	奥の細道サミットに関連する句碑等、荒川区と交流都市の史跡・文化財をパネルで紹介し、交流都市との文化交流を深める。

況議 （要 質 問 状）	H19 予特 橋本佐内套堂の早期復元と回向院に縁のある歴史上の人物などの顕彰について
--------------------------	--

# 事務事業分析シート（平成26年度）

No1

主要事業	事務事業コード	04-02-29	戦略プラン	協働	業務	財務	人事
事務事業名	江戸伝統技術		部課名	地域文化スポーツ部生涯学習課	課長名		北村
			担当者名	井口	内線		1782
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（26年度）	01-03-03	江戸伝統技術					
事務事業の種類	新規事業（26年度 25年度）			建設事業	それ以外の継続事業		
開始年度	昭和	平成	55年度	根拠法令等	無し		
終期設定	有	無	年度				
実施基準	法令基準内 都基準内 区独自基準			計画区分	計画	非計画	
行政評価事業体系	分野	文化創造都市					
	政策	09	伝統文化の継承と都市間交流の推進				
	施策	09-03	伝統的文化の保存と継承				
目的	江戸時代から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術と保持者の存在を広く区内外に周知する。区民が伝統工芸技術の素晴らしさに触れることにより、技術の保存・継承への理解を深めるとともに、伝統工芸技術保持者の技術継承の意欲促進を図る。						
対象者等	伝統工芸技術及び保持者 伝統技術保持者の継承者 伝統技術展来場者 職人体験道場参加者 伝統工芸技術記録映画視聴者 文化館展示観覧者 学校職人教室実施校児童						
内容	<p>「あらかわの伝統技術展」区内の伝統技術保持者等が一堂に会して、作品の展示・技術の実演・来場者の体験コ-ナ-等を行う（会場：荒川総合スポ-ツセンター）。</p> <p>「荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業」荒川区登録無形文化財保持者、指定無形文化財保持者及び荒川区伝統工芸技術保存会会員を対象にその技術継承者育成のための手当てを支給する。</p> <p>「学校職人教室」区内の伝統工芸技術保持者が各小学校に赴き、技術の実演・解説・児童の体験などを行う。</p> <p>「伝統工芸技術記録映画制作」区指定無形文化財保持者の伝統工芸技術を記録する映画を制作。</p> <p>「伝統工芸品購入」区指定無形文化財保持者の作品を購入。原則として記録映画で制作過程を撮影した作品等を購入</p> <p>「職人体験道場」夏休み子ども博物館の事業として、伝統工芸技術を体験できる教室を実施。</p>						
経過	<p>「あらかわの伝統技術展」昭和55年度より開催。平成26年度第35回（7月4日～6日）</p> <p>「荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業」平成21年度より実施。（現在対象者9人）</p> <p>「学校職人教室」昭和59年度より開催。平成19年度より全校で実施。</p> <p>「伝統工芸技術記録映画」制作。昭和60年より実施。25年度：齊藤正一郎氏（刷毛）/49本</p> <p>「伝統工芸品購入」平成元年より購入。25年度購入品：刷毛 累計/55点</p> <p>「職人体験道場」平成16年度試行、17年度より予算化し本格実施。</p>						
必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統工芸技術の素晴らしさを区民に紹介し、理解を深める貴重な機会となっている。</li> <li>・区の伝統工芸技術の保存・継承のために欠かせない事業である。</li> <li>・伝統工芸記録映画は技術の記録保存だけでなく、区民が伝統工芸への理解を深めるのに役立っている。</li> </ul>						
実施方法	<p>（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <p>伝統技術展は荒川区・荒川区教育委員会・荒川区伝統工芸技術保存会・荒川史談会の共催。技術展会場設営及び記録映画制作は委託</p>						

（単位：千円）

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
予算額	16,052	31,021	36,954	41,998	33,686	29,589	33,145	
決算額（26年度は見込み）	15,759	26,528	29,436	32,170	31,185	28,881	33,145	
人件費等	8,377	11,649	11,354	16,109	14,403	13,958		
減価償却費			5,955	8,553	8,229	9,971		
【事務分担量】（%）	195	255	205	220	255	295		
合計（+ +）	24,136	38,177	46,745	56,832	53,817	52,810	33,145	
特定財源			2,791	0	0			
国								
都		1,036	1,155	0	0			
その他	2	141	4	6	10			
一般財源	24,134	37,000	42,795	56,826	53,807	52,810	33,145	
実績の推移	事項名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	「伝統技術展」入場者数	17,000人	15,000人	13,500人	14000人	15,000人	13,200人	14,700人
	「継承者育成事業」参加者数			9	11	11	9	11
	「学校職人教室」参加校数	23校	23校	24校	24校	24校	24校	24校
	伝統工芸記録映画（）内累計	1本(44)	1本(45)	1本(46)	1本(47)	1本(48)	1本(49)	1本(50)

予算・決算の内訳								
平成24年度（決算）			平成25年度（決算）			平成26年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	伝統技術展謝礼学校職人教室謝礼	2,453	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	12,680	負担金補助等	匠育成支援事業補助金	15,000
食糧費	伝統技術展当日賄	261	委託料	技術展会場設営委託等	9,539	委託料	技術展会場設営委託等	10,356
一般需用費	技術展ポスター制作等	636	報償費	伝統技術展謝礼学校職人教室謝礼	2,563	報償費	伝統技術展謝礼	2,600
役務費	技術展ポスター掲示等	1,682	役務費	技術展ポスター掲示等	2,112	役務費	技術展ポスター掲示等	1,862
委託料	技術展会場設営委託等	9,939	使用料等	技術展会場使用料	1,020	備品購入費	伝統工芸品購入	1,300
使用料	技術展会場使用料	1,318	需用費	技術展ポスター制作等	927	使用料等	技術展会場使用料	1,074
備品購入	伝統工芸品購入	436	備品購入費	伝統工芸品購入	40	需用費	技術展ポスター制作等	953

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		23年度	24年度	25年度	26年度見込み	目標値(27年度)	
標	伝統技術展入場者数	14000	15000	13200	14700	17000	

問題点・課題 (指標分析)	P Rの強化や新たな関連事業の実施により、入場者数を増加させる必要がある。
	<p>（実施 5 区 未実施 17 区 不明 0 区）</p> <p>伝統技術展は、他に文京区・北区・葛飾区・江東区・墨田区・練馬区で実施。 荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業は、教育委員会で実施している自治体は全国で荒川区のみ。 学校職人教室は全国で荒川区のみ。</p>
他区の実況	

問題点・課題の改善策	
平成26年度に取り組む具体的な改善内容	平成27年度以降に取り組む具体的な改善内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビ、新聞、ラジオ、タウン誌等に掲載を依頼し、区内外へのP Rを強化する。</li> <li>伝統工芸技術保存会と連携し、伝統工芸技術の魅力を広める新たな関連事業を開拓する。</li> </ul>	新規に開拓した事業を実施し、充実させた内容を周知する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
26年度	27年度	
推進	推進	区の伝統工芸技術についての関心を高め、保存への理解を促すため、必要性が高い。

議 会 質 問 状 (要旨)	
-------------------------------	--